

平成26年度 富山国際大学 学務部自己点検評価報告書

I. 概 要（現状と課題）

1. 教務系部門（教務課、情報センター、図書館）
2. 学生支援部門（学生課、キャリア支援センター、国際交流センター）
3. 基本情報

II. 委員会・部会（評価・課題）

1. 学務委員会
 - （1）学務委員会
 - （2）教養教育部会
 - （3）FD 推進部会
 - （4）教職課程委員会
2. 図書館委員会
3. 情報センター運営委員会
4. キャリア支援センター運営会議
5. 国際交流センター運営会議

平成27年3月
富山国際大学 学務部

I. 概 要（現状と課題）

学務部各部門における平成 26 年度実施内容については、平成 26 年度から始まった 3 か年計画のアクションプランで設定した達成目標を含め、実施した内容について取りまとめた。

1. 教務系部門（教務課、情報センター、図書館）

すでに設定している 3 つのポリシー（アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー）に関して、大学が目指す学修目標が明確にポリシーに反映され、学生にも理解しやすいように一部整理改正を行い、シラバスの記載に配慮した。現代社会学部が平成 24 年度から 3 か年間採択を受けた産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業（産業界 G P）の推進によって、両学部ともアクティブ・ラーニングの手法を取り入れた教育内容の実践や授業評価の可視化などに教職協働により確立しつつある。

なお、授業方法の改善については、本年度から全学的な教員による F D 研修を実施し共通理解が図られつつある。GPA の導入についても検討を行い、次年度より成績表などへの記載、学生個人の総合評価値を明確に表示することを決定した。

26 年度早々、教員による論文の剽窃問題が発生し、学生に剽窃、改ざんなどに関する防止についても明文化し周知徹底を図った。

情報分野では、学部間で設備使用に差はあるが、ネットワーク環境など学生の学修環境を改善するよう検討を行っている。また、今年度より学生証の IC カードの導入を実施した。

図書館の利用状況は、現代社会学部ではカリキュラム改定により事前事後の学習や資格取得のための自習の場として前年に比べ伸びてきている。子ども育成学部では、短大と共有していることもあり利用の利便性には改善の余地がある。

以下、主な自己点検評価項目である。

（1）教務課

① 教育課程並びに履修に関すること

【実施計画・内容】

教学部門の根幹業務に関わる、学則・カリキュラム整備、学生便覧・講義要綱の作成、履修登録と出欠管理について、学生サービスへのサービス低下につながらないよう、学生に常にわかりやすくバックアップできるよう改善しながら業務遂行していく。

【評価・課題】

平成 26 年度から両学部において、授業の到達目標を学生に対して明確にするため、教員と協力し初回授業において受講学生全員にシラバス（講義要綱）を配布し、授業の内容や進め方、そして到達目標を詳しく説明してから授業を進めていくこととし、全ての授業において実践した。非常勤講師の科目については、学務部長からの依頼もあり、講師への説明と授業における配布を行なった。また、学生に対してより授業内容が伝わりやすくするため、シラバスの書式について検討し、平成 27 年度以降改定することとした。

また、平成 27 年度が現代社会学部新カリキュラムの完成年度であるため、平成 28 年度カリキュラム一部改定に向けたカリキュラム検討委員会に教務課長も出席し、カリキュラムについて協議・検討している。

シラバス改定内容（両学部共通事項）

① 到達目標の明確化

アクティブラーニングの推進と学生の学びに対して「何を」「どこまで」という方向付けを明確にする。

② キーワードの記載

学生に授業内容がイメージしやすいよう配慮するとともに、両学部のカリキュラムのナンバリング作業を視野に入れ、各授業のキーワードを複数明記する。

② 産業界 G P に関すること

【実施計画・内容】

本事業は、産業界のニーズに対応した人材育成の取組を行う大学・短期大学が地域ごとに共同して地元の企業、経済団体、地域の団体や自治体等と産学協働のための連携会議を形成して取組を実施することにより、社会的・職業的に自立し、産業界のニーズに対応した人材の育成に向けた取組の充実が図られるよう、国として財政支援を行うことにより、幅広い職業人養成に比重を置く大学の機能別分化に資することを目的とする。

本学は、中部地区 23 大学（5 短期大学を含む）と連携し、「中部圏の地域・産業界との連携を教育改革力の

強化」を目指し、アクティブラーニングの活用と地域・産業界と連携を通して、教育機関として自ら前に踏み出し、考え抜き、チームで働き、チャレンジする教育改革力の強化に努めた。

本年は事業最終年度であり事業は終了した。

【評価・課題】

1. 平成 26 年度の成果

本事業において、①アクティブラーニングを活用した教育力の強化及び②地域・産業界との連携力の強化の2つを柱とした事業推進を図ることになっている。

1) アクティブラーニングを活用した教育力の強化

アクティブラーニングを展開するに当たり、授業改善に努めるため、以下の改善を行なった。

- ・ 講義要綱（シラバスの改定）の改定 - 「到達目標」及び「ポリシー」の明確化
- ・ F D活動の活発化 - 教員間の授業に関する情報共有、優れた取組のデータベース化
- ・ 教育実践の成果測定 - 授業評価アンケート結果、外部評価ツールによる授業達成度の測定
- ・ 学生自身による成長記録の蓄積 - キャリアポートフォリオの活用

これらをどのように推進してきたかを以下に示す。

① アクティブラーニングの採用

学生の学習意欲の増進と主体的な学びの促進を図るため、各授業科目のシラバスに「到達目標」、「キーコンピテンシー（重視する能力）」、「教育方法（授業方法）」を明記した。また、平成 25 年度に科目ごとに設定した「重要視するディプロマ・ポリシー」も明記した。教育方法についても、どのような方法によってアクティブラーニングを行うかをシラバスに示し教育実践を行った。

今年度から各科目の初回授業時に受講者全員にシラバスを配布し、授業内容や評価方法等を説明するようにし、学生の理解力強化に努めた。その結果、シラバスについて再検証することとなり、今年度改定案を作成し、平成 28 年度より新書式を導入することとした。

② 優れた教育実践の経験交流および共有化

現代社会学部では、平成 24 年度から学部 F D 担当者を決めて組織的に活動を活発化させ、平成 25 年度から本格的に始動した。今年度も活動内容として、アクティブラーニングの手法の相互学習、授業参観を通じた教員の授業方法についての意見交換を中心に行った。そして、授業参観や意見交換を通じて知り得た優れた授業実践については、データベース化した。そして、年度末 3 月に外部から講師を招き、F D 研修会を開催し第三者の意見も取り入れながらアクティブラーニング実践に関する知識を深めた。

③ 教育実践の成果測定

平成 25 年度に科目ごとの達成目標と重要視するディプロマ・ポリシーを設定した。今年度は新カリキュラムが導入された平成 24 年度に作成した授業評価アンケート書式による三ヶ年の結果をディプロマ・ポリシーに対する授業達成度の効果測定を行った。また、昨年度に引き続き、現代社会学部 1.2.3 年生を対象に、外部の評価ツールを用いて、大学生活で得た知識や学力、大学生活に対する意識について調査を実施した。

④ 学生の成長記録の蓄積・活用

既に稼働している「キャリアポートフォリオシステム」を教員が積極的に活用し、学生の教育指導を効果的に進めるよう、現代社会学部長を中心に啓発の取り組みを進めた。

2) 地域・産業界との連携力の強化

① 地域・産業界との教育連携

本学独自の短期インターンシップや各授業科目における地域・産業界との教育連携を推進するとともに、正課科目である「地域づくり実習」、「専攻実習」、「専門演習Ⅱ（卒業研究に相当）」、「キャリアデザイン講座」、正課外活動である「夢への架け橋助成事業」において一層の地域・産業界との教育連携を図った。

② 海外産業研修（海外版インターンシップ）の実施

中国やタイに進出している日本企業や法人団体での現地インターンシップを推進するため、進出地域に立地する中国の大学との話し合いを進めた結果、今年度は中国に 3 名、タイに 1 名の学生が海外インターンシップに参加した。

2. 平成 26 年度の活動評価

1) アクティブラーニング／インターンシップの強化

平成 26 年度末までの目標：

- ① 各授業において、対話型授業、演習・反復型授業、グループ学習、地域フィールドワークなどの「アクティブラーニング」を 1 つ以上実践し、卒業までに達成すべき学修成果指標（アウトカム指標）を設け、その

達成に各授業科目がどう寄与しているのかを評価・分析し、学修成果の達成度を評価する。

- ② 効果測定の一環を通じて優れた教育実践をFD活動等で明らかにし、学外者のアドバイスも受けながら、本学のベストプラクティス教員から学ぶために、優れた教育実践を可視化し、重要なノウハウを全体の財産としてデータベース化し共有化を行う。

平成24～26年度評価：3

評価指標

- 1：目標に向かってスタートした ⇒ 各科目の学修成果指標、教育実践における評価方法等の情報を共有し、検討が始まった。
- 2：目標に近づいた ⇒ 各科目の学修成果指標、教育実践における評価方法等ができ、改善策を策定した。
- 3：目標に達した ⇒ 各科目の学修成果指標の達成度の評価、改善策をもとにアクティブラーニングを実行した。
- 4：目標を上回った ⇒ 各授業科目のアクティブラーニング実践形式数が増え、ベストプラクティス教員の教育実践の可視化、情報共有化が図られた。

2) 地域・産業界のニーズの把握と反映

平成26年度末までの目標：

- ① 地域・産業界がどのような人材育成を望んでいるのか（以下「地域・産業界ニーズ」）を調査し、把握する。
- ② 調査結果等をもとに、本学が育成する人材像に関してFD研修などで協議する。
- ③ 地域・産業界ニーズと、本学の人材育成像を踏まえ、産業界の方々と交えた「外部評価委員会」において教育改善策や地域連携方策に関する意見交換を行う。

平成24～26年度評価：3

評価指標

- 1：目標に向かってスタートした ⇒ 地域・産業界ニーズを把握し情報共有した。
- 2：目標に近づいた ⇒ 地域・産業界ニーズと本学の人材育成像などを確認・把握した。
- 3：目標に達した ⇒ 地域・産業界ニーズと本学の人材育成像などを踏まえ、教育改善策や地域連携方策を策定した。
- 4：目標を上回った ⇒ 教育改善策や地域連携方策を実行に移した。

③ その他教務関係に関すること

【実施計画・内容】

① 大学コンソーシアム富山について

富山県大学連携協議会を発展解消され、平成25年度より大学コンソーシアム富山が創設された。その下部組織である教育連携部会において、教務課として「単位互換」（とやま地域学）にかかる事業を展開する。

平成26年度単位互換科目「とやま地域学」事業計画

1 開講時期

平成26年9月2日(火)～5日(金) 1日4コマ×4日間の集中講義

2 開講場所

9月2日(火)～4日(木) 富山県教育文化会館 1階集会室

9月5日(金) 県内研修（環水公園(中島開門)・岩瀬街並み(桝田酒造、森家)・U-meい館)

3. 対象学生

富山大学、富山県立大学、高岡法科大学、富山短期大学、富山福祉短期大学、富山高等専門学校、富山国際大学の1年次生中心（約80名）

※一般(市民)聴講生も含む。

② 公益財団法人富山県ひとづくり財団助成金について

毎年、富山県外郭団体の標題財団が、県内の高等教育機関の教育研究活性化推進をすべく、一定の事業に助成支援をしており、その申請・実績報告業務を実施していく。

③ 公益財団法人富山第一銀行奨学財団研究助成金について

毎年、富山第一銀行奨学財団より本学の研究に一部助成し、地域貢献を図っていることから、その申請・

実績報告業務を実施していく。

④ 委託訓練事業について

平成 25 年度から開始した富山県から委託された訓練事業「観光ビジネス科」を 26 年度も開講する予定である。本事業は、離職者に対する職業訓練事業であり、10 月 1 日の開校式に始まり、10 月～2 月初旬までは大学内において座学を中心に展開し、2 月中旬から 3 月下旬にかけて職場実習を行う。

【評価・課題】

平成 26 年度は次のような評価と課題であった。

① 大学コンソーシアム富山（単位互換）について

実施計画に基づき、初めて開講した大学コンソーシアム富山単位互換科目「とやま地域学」に、県内学生、一般聴講生を含めた受講人数は、99 名であった。

富山県に関する様々な情報を、資料やデータなどから、日本や国際社会と比較し、富山の強み、問題点などの特色を知ること、そして 21 世紀の富山活性化策について考えるため、4 日間にわたって計画どおり実施できたが、アンケートでは施設に対する不満が多々あった。

県内のフィールドワークは、まずまずの時間運びで処理できたが、梅かまでバスの運転手が暫くの間姿が見えず、帰着に遅れが出たようで、バス依頼会社との綿密な連携をすることが反省材料として残った。

② 公益財団法人富山県ひとつくり財団助成金について

本年度本学が受給している事業は、次のとおりである。

【受給状況】

- ・2 号 シンポジウムの開催に対する助成 現代社会学部 1 件 子ども育成学部 1 件
- ・4 号 著名研究者等による学術講演会の開催に対する助成 子ども育成学部 1 件
- ・5 号ア 若手研究者育成枠 現代社会学部 1 件
- ・5 号イ 地域課題解決枠 現代社会学部 1 件
- ・7 号ア 学生確保推進支援事業 大学全体 2 件
- ・7 号イ 大学活性化支援事業 地域交流センター1 件

③ 公益財団法人富山第一銀行奨学財団研究助成金について

本年度本学が受給した研究は、次のとおりである。

【受給状況】

<現代社会学部 3 件>

- ・大西一成教授 「富山県中小企業をマクロ・ミクロの視点からみた実証分析」
- ・高橋ゆかり講師 「室内外における多環芳香族炭化水素およびアルデヒド濃度と住環境に関する研究」
- ・Pavliy Bogdan 講師 「富山県の観光資源の再評価に関する研究」

<子ども育成学部 3 件>

- ・辻井満雄教授 「富山県小学校における「ふるさと教育」の現状と課題」
- ・大藪敏宏准教授 「富山の「草刈り十字軍」運動に関する研究－西洋哲学との比較の観点から－」
- ・堀江英一准教授 「「地域社会参加活動」がもたらす教育的効果に関する研究」

<地域交流センター1 件>

- ・樋口靖彦講師 「市民のニーズをとらえた一般教養講座のあり方に関する研究」

④ 委託訓練事業について

26 年度の事業については、6 名の訓練生を受入れた。観光に関する知識のみにとどまらず、実務で役立つ資格の取得にも力を入れ、以下のとおり複数の資格を取得させた。また、この訓練期間中に就職が決まった訓練生も 2 名おり、一定の成果を残せた。

- ・観光ビジネス科 受入れ人数 6 名
- ・訓練中に就職が決まった人数 2 名
- ・途中で訓練を終了した人数 1 名（病気のため）
- ・資格取得状況
 - ビジネス能力検定ジョブパス 2 級 6 名
 - ビジネス能力検定ジョブパス 3 級 1 名
 - コンピュータサービス技能評価試験ワープロ 3 級 5 名
 - コンピュータサービス技能評価試験表計算 3 級 5 名
 - 日商簿記検定 3 級 3 名

(2) 情報センター

① 全体業務に関すること

【実施計画】

- ① メーカーサポート期限の終了を迎えるファイアーウォール、および、NW機器 UPS の更新の実施。
- ② 新 ORION ファイルサーバへの移行。
- ③ Microsoft 社 Windows XP オペレーティングシステムのサポート終了への対応 (H25 より継続)。
- ④ 研究活動における不正行為 (改ざん・ねつ造・盗用) 防止に向けた、紀要執筆要領の改訂の実施。
- ⑤ IC カード学生証を用いた来館者計数方法のテストシステムを作成、計測。

【実施内容】

- ① 既にサポート期限に達していたNW機器 UPS 入替を 8 月 12 日(火)に実施し、ファイアーウォールはサポート期限日直前までの有効活用を考慮し 2015 年 2 月 11 日(水)に入れ替えを実施。
- ② 呉羽キャンパス ORION ファイルサーバが年末にハードディスクサポート期限を迎えることから、9 月 1 日(月)東黒牧キャンパスへの移行を実施。
- ③ 業務上の理由から未対応となっていた Microsoft 社 Windows XP オペレーティングシステムのコンピュータを停止し、或いは、Windows7 のアップグレードインストールを実施。
- ④ 市販コピー判定支援ソフトの試用と評価を実施。紀要のチェックに使用。
- ⑤ IC カード学生証を用いた来館者カウントシステムを作成し、来館者の計測および利用度の判定に活用。

【評価と今後の課題】

- メーカーサポート期限の終了を迎える各種主要機器を順次入れ替えていく必要がある。
- 教職員のコンピュータ機器やソフトウェアに関する知識の向上を図る必要がある。
- 老朽化するコンピュータ室やメディアコーナーの共用コンピュータの扱いを検討し、学生のノート型コンピュータの活用促進に力を入れていく必要がある。
- 東黒牧 C と呉羽 C との間の専用線帯域の拡大を検討する必要がある。
- 図書館との組織統合に関して議論する必要がある。

② その他

上記の他、特記すべき事項はない。

(3) 図書館

① 全体業務に関すること

【実施計画】

東黒牧キャンパスと呉羽キャンパスの入館者数や貸し出し冊数の増加のための工夫や、推薦図書の周知方法の工夫などを行う。

【実施内容】

図書館利用について教員との連携や、オリエンテーションなどでの告知などで、図書館の利用促進を図った。また電子掲示板等で、リクエスト図書の募集を行う等、図書館への関心を喚起するように工夫した。

【評価と今後の課題】

本年度の入館者数・貸し出し冊数について、特に東黒牧キャンパスにおいては入館者数が 18,464 人、貸し出し冊数が 955 冊であり、入館者数については約 0.2%減、貸し出し冊数については約 24%減であった。入館者数は前年度と比べさほど変わらないが、貸し出し冊数が大幅に落ち込んだことから、来年度は、今年度以上に貸し出し冊数の増加に繋がるような工夫を行いたい。

② その他

【課題】

図書館の将来運営に関する課題として、図書館と情報センターの機能を融合させた新しい図書館の検討をすすめる必要がある。

2. 学生支援部門（学生課、キャリア支援センター、国際交流センター）

2つのキャンパスが離れていることから、学部により学生要望の内容に差があるが、本年度取り組んだ内容として東黒牧キャンパスにおいては、自然環境との共生の場にふさわしい緑化・花づくりなど心地よい環境づくりに加え、学長裁量経費（学務部申請）の採択を受け、冬場の賑わい創出の一環として学友会と学務部関係教職員とが協働でクリスマス・イルミネーション、クリスマスツリーの設置を行った。さらに、食堂のメニュー改善や文房具、お菓子販売などのミニ売店設置など学生にとって不可欠な生活環境の整備に取り組んだ。

呉羽キャンパスにおいては、自学自習できる設備環境を整え、クラブ・サークル活動にも昨年度より一層充実した活動ができるよう継続的に資金面で配慮した。

経済的な支援を要する学生への奨学金支援、諸活動入学生への文武両道精神の醸成として GPA（2.0 程度）の厳守と厳格な指導に心掛けた。さらに、富山国際大学らしいあり方として留学生との交流（チューター制度導入）、学生に提案型事業である「夢への架け橋事業」など学生の主体性を育む事業を推進している。

豊かな学生生活を送るための支援活動として、学友会などの活動に教職員が積極的に支援し、大学行事であるスポーツ文化交流会、大学祭などにも学生と教職員との連携によって行った。

現代社会学部・子ども育成学部とも車で通学学生が多い本学では、「学生の駐車指導」をはじめ、事故を未然に防ぐための「交通安全指導」について警察の協力を得て教職協働で注意喚起を図っている。特に、東黒牧キャンパスでは、平成 26 年度も学生と職員で交通安全キャンペーン活動を 4 年間、毎月 1 回継続して実施しており、東黒牧近辺で起きた痛ましい事故の記憶を風化させない活動として今後も継続する予定である。

国際交流に関する支援では、現代社会学部の留学生へのケアや全学学生の留学をサポートしている。26 年度は子ども育成学部学生の参加申し込みも多数あった。残念ながら、フランスの異文化研修においてはテロ事件の影響で中止となってしまった。

キャリア支援に関しては昨年に続き現代社会学部では就職率 96%、子ども育成学部は 100%を達成した。

また有力企業への採用の占める割合も昨年並みであった。一方、子ども育成学部でも、専門職である小学校教諭、保育・幼稚園教諭の採用が前年度を維持し、社会福祉士の合格率は昨年以上の伸びを示し、全国でも上位の合格率となっている。

以下は、主な自己点検評価項目である。

（1）学生課

（1）奨学金に関すること

富山国際大学奨学金、独立行政法人日本学生支援機構奨学金、富山第一銀行奨学財団奨学金、各県市町村関係の奨学金等の取り扱いをし、各奨学金の申請、継続、返還、異動の手続きや学習成績の報告を行う。

【実施計画】

経済的に困難な状況にある学生の修学継続を支援するため、本学独自の各種奨学金制度がある。日本学生支援機構奨学金、地方公共団体・財団等の奨学金についても、学生および保護者からの相談に応じ、適切な助言、受給に向けた対応にあたっている。本学独自の奨学金としては、経済的理由により学費等の納付が困難である者、成績優秀者、諸活動で成果を収めた者、海外留学者（半期）、外国人留学生を対象にした制度がある。奨励金として、学業成績または諸活動において前年度に著しく優秀な成果を収め、他の在学生の模範であると認められた 2 年次以上の学生に給付する制度である。

【実施内容】 富山国際大学奨学金 → 次ページ

富山国際大学 奨学生比較表				
奨学種類		免除額	H26 予定人数	H26 実績人数
(第1種)	経済的理由	980,000	1	
在校生		490,000	2	3
		465,500		
		275,000		
	小計			
(第2種)	特別奨学生 選抜試験	850,000	4	
受験生		575,000	4	2
		275,000		1
	小計			
(第2種)	特別選抜 試験特待生	550,000	7	6
在校生		275,000	15	13
	小計			
(第2種)	諸活動 特待生	850,000		
受験生		575,000	1	1
		425,000	2	2
		275,000	8	8
		300,000	4	4
		150,000	2	2
	小計			
(第2種)	諸活動 特待生	550,000	2	2
在校生		275,000	27	18
		183,000	2	1
	小計			
(奨励金)	成績優秀者	100,000	12	12
	諸活動優秀者	100,000	6	1
	小計			
	合計			

日本学生支援機構等奨学金等

奨学財団名等		人 数	備 考
日本学生支援機構		227	第1種 87人 第2種 140人
富山第一銀行		3	
富山県		4	
各市町村		1	
交通遺児育英会		0	
あしなが育英会		2	
留学生	富山県	6	
	日本学生支援機構	2	
	朝日国際	5	

【評価と今後の課題】

奨学生について、経済的に授業料が支払えない理由で相談が増加している状況であり、大学の奨学金については、一人でも多くと考え、予算内で定められている一人あたりの奨学金の額を減額して、対処している状況である。オリエンテーションで、学生に対して他の機関の奨学制度を情報提供して、大学生活ができるよう努力をしている。保護者との話し合いが少ないように感じられるので、保護者にも情報提供し、学生本人と相談しやすい環境を作っていく。

(2) イベント関係に関すること

大学祭、スポーツ文化交流会、富山県私学祭、卒業記念パーティー等を運営する学生の補助をする。

■大学祭

【実施計画】

現代社会学部 平成26年10月25日(土)～26日(日) 東黒牧キャンパス
子ども育成学部 平成26年10月19日(土)～20日(日) 呉羽キャンパス

※ポスターは両学部で共通のポスターを作成

【評価と今後の課題】

現代社会学部については、昨年は後期授業が始まって2週間目に開催なので、準備及び学内でのPR不足もあり、次年度は1週間～2週間遅らせて開催した。これにより、運動部関係の大会が終了しており、運動系の学生参加者が増えた。子ども育成学部につきましては、富山短期大学と開催日が同時であり、中心的なステージを共同で使用また委員との話し合いにより詳細な事を決定している状況であり、大学として自由に出来ない部分もある。

■スポーツ文化交流会

【実施計画】

1. 目 的 スポーツ及び文化系競技等を通して、富山国際大学両キャンパスの学生（留学生を含む）及び教職員相互の親睦を図る。
2. 期 日 平成26年6月5日（木）
3. 会 場 富山国際大学東黒牧キャンパス
4. 参加者 現代社会学部1・2年（全員参加：教養演習出席振替）3～4年（自主参加）
子ども育成学部1・2年（全員参加） 3～4年（自主参加）
不参加の3年の学生はボランティア活動等
職藝学院：全学生（自主参加）参加者要事前申請 スポーツ系のみエントリー可
スポーツ系の各競技にチーム数の制限を設ける

【実施内容】

参 加 者	現代社会学部	1・2年（全員参加：教養演習出席振替） 3・4年（自主参加） 教員
	子ども育成学部	1・2年（全員参加） 3・4年（自主参加）不参加の3年の学生はボランティア活動等 教員
	職藝学院	全学生（自主参加）参加者事前申請必要スポーツ系のみエントリー可 スポーツ系の各競技にチーム数の制限を設ける

【評価と今後の課題】

学生中心に計画を立て実施し、両学部の交流親睦を図るのが目的だが、学生同士の親睦がそんなに図られていないのが現状である。準備中及び開催当日に学生同士が話し合える工夫が必要であると考えられる。準備段階で、学生だけで創意工夫をさせ、教職員が見届けるような体制にして、学生が自立して実施することにより、親睦が図られる。

■私学祭について

富山県私学祭

【実施計画】

私学の美術展

日時 平成26年11月25日（土）～26日（月）10時～17時（最終日は16時まで）

場所 富山県市民プラザ

内容 私立幼稚園の園児、私立中学高校の生徒、私立大学・短期大学・専修・各種学校の学生による絵画、書等の芸術作品展示

【評価と今後の課題】

大学は文系であり、サークル及び個人的に活動している学生の作品であり、専門的な指導の下で作品を作成していない中、作品を提出している状況である。他大学より、作品が少ない事もあるが、私学祭のことを早い時期に周知し、計画的に余裕をもって作品に取り組む工夫をする。

■卒業記念パーティー

【実施計画】

平成25年度 第21回 富山国際大学卒業記念パーティー計画概要について

- ・日時 平成26年3月18日(月) 受付 15:30～16:00
- ・宴会 16:00～18:00
- ・会場 ホテルグランテラス富山(旧 名鉄トヤマホテル) 4階 「瑞雲の間」
- ・主催 富山国際大学後援会
- ・後援 富山国際大学同窓会
- ・出席案内先 平成24年度卒業生(172名)[内訳:現代社会学部96名 子ども育成学部76名]
- ・後援会 会長含む役員、同窓会 会長含む役員(36名)
- ・理事長、学長 学部長、教職員等(82名)
- ・非常勤講師、クラブ指導者(84名)
- 案内先合計 374名
- ・見込み出席率 57.5% 見込み参加者合計 約215名
- ・司会・進行 現代社会学部学友会・子ども育成学部学友会
- ・会費 卒業生・教職員 一人 3,000円

【評価と今後の課題】

昨年度より、学生の出席率が高くなり、年々出席率が良くなり盛大に実施することができた。計画・司会・進行した学生と学生課教職員でパーティー終了後、反省を実施した。その中で、成功例・失敗例と個々に思っていることがあり、これを、次回の担当者に引き継いで行くことにより、年々良くなっていく。

(3) クラブ関係に関すること

クラブ・サークルの運営管理、クラブ・サークルの後援会予算管理等を行う。クラブ会総会開催の補助をする。

【実施計画】

■平成26年度 クラブ会総会

日時 平成27年3月4日(水) 10:00 場所 呉羽キャンパス E館 404 講義室

1. 平成27年度 クラブ会 会長等の選出について
2. クラブ活動について・学生団体継続願い等について
- ・施設(大学会館・体育館等)の利用について・クラブへの補助について・各種届出について(遠征届・バス利用申請等)
3. 平成27年度 クラブ紹介について
4. 平成27年度 スポーツ文化交流会について
5. スポーツ安全保険について
6. その他

【実施内容】

平成26年クラブ一覧

	東黒牧キャンパス	呉羽キャンパス
体育系部 & サークル	硬式テニス部(休部) 硬式野球部 サッカー部 女子ハンドボール部 男子バスケットボール部 ボート部 E S (enjoy sports) スキーサークル バドミントンサークル ビーチボールサークル	自転車サークル 女子軟式野球部(短大と合同) 体操競技サークル ダンスサークル テニスサークル バスケットボールサークル バドミントンサークル バレーボールサークル ビーチボールサークル フットサルサークル
文化系部 & サークル	軽音楽部 茶道部 吹奏楽部 ボランティア部 環境サークル 芸術サークル 国際交流サークル	吹奏楽部 アカペラサークル SSW 研究会(スクールソーシャルワーク研究会) 演劇サークル 音楽サークル JAZZ サークル ダーツサークル

中国サークル（休部） 日経講読会 B研（ビジネス資格研究会） ラベンダーサークル 釣りサークル 放送サークル	TUINS English Club 天文同好会 TIES（富山国際大学小学校教育研究会） Harness（ボランティアサークル） 保育サークル～にこにこ～ Photo サークル 美術サークル へそ（東日本大震災復興支援サークル）
---	--

【評価と今後の課題】

ボート部女子ダブルススカル競技において、全日本選手権・全日本軽量級選手権・全日本大学選手権の冠を達成した。今後他のクラブ活動において刺激しあい、相乗効果により各クラブ活動において成績向上に繋がっていけばと良いと感じている。また、サークルの学生確保が難しく、掛け持ちをして積極的に活動している学生もいるが、部・サークルに一人でも多く所属して、活気ある学生生活を送る様に、学友会・クラブ会が中心になって努力していく。

（４）同窓会に関すること

同窓会報の発行業務。

【実施計画】

同窓会報は、年に１回発行。

発行日 2015年3月18日（卒業式当日配布の場合）

発行部数 3,000部

【評価と今後の課題】

同窓会の行事が少ないため、記事内容にあまり変化がない。今後、同窓会と検討していく。
また、同窓会員が企画して作成するのが望ましい。

（５）大学コンソーシアム富山に関すること

大学等リーダー研修会に関する業務。

【実施計画・内容】

実施日時 平成26年7月19日（土）～7月20日（日）

実施場所 いこいの村 磯波風

参加対象 大学コンソーシアム富山 構成機関の学生会等所属学生◇参加状況参加者43名
富山国際大学 教職員2人 学生 7人

県内の各大学等において学生会やサークル等のリーダーとして活動する大学生等を対象に、課題解決手法を修得するための研修を行い、リーダーとしての資質向上を図る。

また、大学等の枠を越えた研修により、参加する学生間の交流・連携を深め、ひいては学生の主体的な活動による大学等間の連携の推進を目指す。

【評価と今後の課題】

他大学学生と交流が図れ、学生同士の刺激を受け、今後とも実施して欲しい事。また、大学に帰って個々にリーダーとして役割を果たすことに期待が持てる。

（６）夢への架け橋助成事業に関すること

夢への架け橋助成事業の募集告知、申請事業のヒアリング、学内審査会、助成金の交付、事業終了後の報告書管理を行う。

【実施計画】

募集期間：平成26年4月2日（水）～5月14日（水）【必着】

1 目的

この助成事業は、本学の学生の活力を生かすとともに、地域との連携を更に深め、地域に貢献することにより、本学の活性化に資することを目的に、本学の学生から研究・活動等の事業計画を募集し、その事業の実施に対し本学が助成・支援を行う。

2 助成対象事業

本学に在学する個人又はグループで積極的に研究・活動等を行うものとし、以下に掲げる事業とします。

- | | |
|---------------------------|---------------------------|
| (1) 地域問題、国際問題に関する調査・研究事業 | (6) 地域活性化の調査・研究又は事業の実施 |
| (2) ベンチャー企業の創設に関する調査・研究事業 | (7) 国際的文化交流に関する活動 |
| (3) NPO活動事業 | (8) 各種創作活動 |
| (4) イベント計画・実施事業 | (9) その他本学の活性化に繋がると認められたもの |
| (5) ボランティア活動の計画・実施事業 | |

【実施内容】

平成 26 年度 夢への架け橋助成事業

	事業	特記事項等	審査結果
1	〃(7)国際的文化交流に関する活動 (9) その他本学の活性化に繋がると認められたもの 国際交流サロン Part3 【概要】国際色豊かなキャンパスで留学生と共に日本の良さを学びあう環境づくりを継続し、「キャンパスの国際化」と「日本再発見の旅」を企画。「キャンパスの国際化」の一つの仕掛けとして、故郷を留学生と share する「留学生ウエルカムバンク」を企画。日本人学生・教職員から「いちにち里親」を募り、留学生に日常の日本家庭を体験してもらう。「日本再発見の旅」では、日本の伝統文化や里山再生活動・地域活性化などに取り組んでいる地域を訪問し日本の良さを学ぶ。	3 年間継続しての事業で完成度は高いが、創造性に少し欠けるのではないかと。 事業の内容について、大学祭等でパネル展示をするなど現代社会学部だけでなく子ども育成学部にも広く PR すればよい。	採択
2	(5) ボランティア活動の計画・実施事業 (7) 国際的文化交流に関する活動 国際貢献活動：ムラブリ寄り添いタイ 【概要】平成 26 年 3 月に、タイへ少数民族の調査へ行き、彼らの生活実態を知ったことから、何とかしたいという思いに駆られ、国際貢献活動を考える学生グループを立ち上げた。タイ・ナーン県のムラブリ族はかつて「黄色い薬の妖精」と言われ、一ヶ所に定住しない狩猟民族であった。1985 年、政府の政策で定着を強いられ、モン族やミエン族の農業労働者として生活の糧を得ているが、自分たちの畑を持たず、狩猟本能が衰えきらない彼らの生活は質素で困窮状態にある。私たちの支援のあり方は、「物」をあげる一過性の援助ではなく、彼らの生活習慣や生きる術を学び、それをもとに彼らの生活向上につながる支援策を考え・実施していくことである。そのため、本プロジェクト名を「ムラブリ寄り添いタイ」とした。	プロジェクト内容は 5 年間わたる長期のもので、大いに期待をしたい。事前学習として、タイ語をすでに勉強していることに意気込みを感じる。しかし、資金、継続性に対する不安もあるので、大学以外から資金確保も視野に入れ、毎年下級生にプロジェクト内容を伝え、継続してもらいたい。	採択
3	(5) ボランティア活動の計画・実施事業 限界集落支援活動 【概要】限界集落の活性化をめざし、その過程で自分たちがやらなければならぬ地域貢献を考え、自らの生き方を考える契機とする。上島地区の伝統的な生活文化をはぐくんできた生きるための知恵を人々とのふれあいのなかから学ぶ。へき地校である利賀小学校の児童の学習活動支援を試みて、へき地校の子どもたちの学びを通して将来の教職への道筋としていきたい。	活動メンバーは将来、教育関係に就くことをめざす学生であり、本事業が地域活性化に寄与すると共に、地域に根ざした教育の推進の一環として評価できる。昨年度の活動内容とそれほど変化がないため、今後は新たな取り組みにつなげてほしい。	採択
4	(5) ボランティア活動の計画・実施事業 東日本大震災復興支援活動並びに関連行事への参加 【概要】3 月 11 日は震災から 3 年が経過した。被災地の環境は当時と比べると非常によくなったが、「復興した」とは言い難く、現地はまだ多くのボランティアを必要としている。しかし、世間はメディアを中心に震災に目を向けず、関心の低下、ボランティアの減少に繋がっている。今後も学生ができる支援を見つけ、積極的に活動を行い、様々な学びを生かして、私たちの生活を見つめ直しながら、日々の生活・活動を行っていきたいと思っている。	世間はメディアを中心に震災に目を向けなくなり、東日本大震災は過去の出来事になるのではと危惧している学生たちの気持ちがよく伝わった。学外の団体との現地だけでなく、協働ボランティアだけでなく、東黒牧キャンパスの学生との交流活動、富山県内での啓発活動など実施して、大学独自の活動に広げてほしい。	採択

【評価と今後の課題】

募集件数が 4 件と少ないのと、継続事業が 3 件であり、オリエンテーション及びゼミ担当教員へ PR 強化をする。また、報告書の取りまとめについて締切日を守らないので、早急に提出するように管理する。

(7) 広報関係に関すること

年 2 回のコスモス通りの発行業務（内容案作成、原稿依頼、原稿収集、校正）を行う。また、北陸中日新聞「キャンパスから」への掲載原稿の管理（教員・学生と新聞社との仲介）を行う。

■コスモス通り

【実施計画】

70号 平成26年4月2日発行予定、1,400部〔内訳：学生課650部、後援会750部〕
入学式（4月4日 金）に新入生の保護者に配布
2・3・4年生の保護者へは、後援会総会案内状に同封する

71号 平成26年9月中旬 保護者へは前期成績表の発送時に同封する

【評価と今後の課題】

年2回発行となり、記事内容については年間を通してより内容を検討して実施した。今年度の記事内容を踏まえて、検討していく。

■北陸中日新聞

【実施計画】

年間26回掲載計画

現代社会学部・子ども育成学部 各13回と掲載する

【評価と今後の課題】

平成25年度から開始し、平成27年度も掲載する運びとなった。

（8）学生定期健康診断に関すること

【実施目標】

学校保健安全法に基づき、学生の健康保持増進を図るため、毎年全学生を対象に定期健康診断を行う。
各自の健康状態を把握し、疾患等の早期発見と適切な治療や指導を行う。

【実施内容】

毎年オリエンテーション日に合わせて、3日間実施している。

健診項目は身体計測（身長・体重・視力）、血圧、尿検査、胸部X p撮影、内科診察。

※心電図検査：1年生全員と前年度心電図検査で有所見とされた在学生在が対象。

※抗体検査（血液検査）：子ども育成学部1年生が対象。

【評価と今後の課題】

健康診断受診率は98.5%、有所見者は延べ156名。

有所見者に対しては校医診察、健康相談、保健指導を行い、必要に応じて医療機関受診とした。また今年度より中国人留学生新入生11人については、入国後直ちに胸部直接撮影を実施した。結果は全員異常なしであった。（昨年4月に結核と診断された学生3人の管理検診は続いているが特に異常なく経過している。）

（9）教職員定期健康診断に関すること

【実施目標】

教職員の健康の保持と増進、疾病の早期発見、予防などを目的として、毎年定期的に健康診断を行う。

【実施内容】

毎年9月学生の夏季休業中に本学内に於いて実施している。また当日受診できない教職員については健診機関にて受診できるよう数日予備日を設けている。

健診項目は身体計測（身長・体重・視力・聴力）、血圧、尿検査、胸部X p撮影、内科診察、血液検査、胃透視、大腸検査、婦人科検診。今年度より50才以上の男性対象にPSA検査を実施した。また希望者にABC検診を実施した。（ABC検診とは血液検査による胃がんリスクスクリーニング）

【評価と今後の課題】

東黒牧Cは9/26（金）、呉羽Cは9/11（木）に実施した。健康診断受診率は94.2%、有所見者は48名。

有所見率はかなり高い。

有所見者に対しては校医診察、健康相談、保健指導を行い、必要に応じて医療機関受診とした。

（10）救命講習会に関すること

【実施目標】

AED設置に伴いその操作を含む救命講習会を、消防署の救命士を講師として行う。

【実施内容】

- ・東黒牧C：学務部内で実施の有無を諮り、2年に1回の開催にて、今年度開催した。
10/15（水）13:00～14:30（90分）14名参加（内1名教員）
- ・呉羽C：キャンパス内で講習会を開催した。（教育系の学部であることから毎年実施）
8/26（火）9:00～12:00（3H）9名参加

【評価と今後の課題】

講習会に参加希望する学生が少ない。高校生時や自動車学校でもAED操作については講習を受けていることもあるが、時間が長いということも原因のひとつと考えられる。

出来れば授業の一環として全員参加してもらいたいが、それも難しい状況なので、参加学生の決定にはゼミ担当教員の協力をお願いした。

（11）相談業務について

【実施目標】

- ・身体面健康の保持と増進のため、学校医が相談に応じる。
- ・精神的健康の保持と増進のため、カウンセラーが相談に応じる。

【実施内容】

<学校医> 月1回来校

<カウンセラー>東黒牧C：毎週金曜日 11:00 から 16:00 まで

呉羽C：第1・3木曜日 12:00 から 15:00 まで

第2・4木曜日 13:00 から 17:00 まで

【評価と今後の課題】

H26年度の健康管理センター利用者は延べ945名であり、うち呉羽Cは260名であった。

主に健診後の有所見者の再検査や健康相談・保健指導である。生活習慣病である肥満は受診者の14.9%（BMI25.0以上）、高血圧は4.6%（140/90以上）みられた。

カウンセリングを受けた学生は延べ153名であり、うち呉羽Cは63名であった。内訳は学生生活、家庭、進路、就職、対人関係など多岐にわたっている。また医師の診断書はないが、発達障害を疑うような学生も少数ながら見受けられる。

学校医やカウンセラーが非常勤であるため、常駐している看護師が来室する学生の相談にのることがある。学生の状況に応じて学校医やカウンセラーに繋いでいくようにしている。

発達障害を疑われる学生については、健康管理センターだけでなく、教職員全体がその理解と協力が必要であると思われる。

（12）健康診断証明書の発行に関すること

【実施目標】

就職・実習・奨学金申請等に必要な健康診断証明書を、定期健康診断の結果に基づいて発行する。

【実施内容】

子ども育成学部4年生の就職用健康診断証明書は、呉羽C健康管理センター（短大保健室）から発行している。現代社会学部全学生と、子ども育成学部1～3年生及び実習等に必要な健康診断証明書は、東黒牧C健康管理センターより発行している。

【評価と今後の課題】

H26年度の健康診断証明書の発行件数は320件であり、うち子ども育成学部4年生就職用は33件であった。

（13）その他

上記の大項目に含まれないが、学生課にて対応する業務。

■平成26年度学生生活アンケート

【実施内容】

「平成26年度学生生活アンケート」の結果

後学期のオリエンテーション（9月末）に実施した「平成26年度学生生活アンケート」の目次の項目についてアンケート実施を行った。この結果を踏まえて、今後とも、学生の皆さんがより楽しく充実した大学生活を送れるよう、学習環境の改善に努めていきたいと考えています。

【評価と今後の課題】

データ分析をして、今後このデータを利用して学生生活の向上を図るため、学友会と相談し、平成26年度のオリエンテーションで、クラブ・サークルに加入する学生を増やすため、学友会・クラブ会が中心となり、新入生に呼びかけることとなった。

■学長賞等表彰について

【実施計画】

この一年間、本学の学生として著しく表彰に価する業績のあった者あるいは、文化、スポーツ、諸活動を通じ、特に優れた業績を修めた団体又は個人に対し、富山国際大学学則第38条及び同学生表彰要項に基づき表彰したいので、別紙様式により候補者の推薦をされるよう、関係者にお願ひし実施する。

平成27年1月6日 関係各位に推薦依頼

平成27年1月20日 締め切り

平成27年2月5日 全学学務委員会

平成27年2月12日 両教授会

平成27年2月18日 運営会議

【実施内容】

下記の学生表彰候補者が提出され、平成27年1月の学務委員会で審議し、2月の両教授会及び運営会議で審議承認された。

学生表彰候補者一覧表

No	表彰規程	推薦賞名	個人・団体	所属
1	第2条1	学長特別賞	個人	ボート部（女子）ダブルスカル
2	第2条1	学長特別賞	個人	ボート部（女子）ダブルスカル
3	第2条1	学長特別賞	個人	郷土民謡の研究と歌い手
4	第2条2（1）ア	学長賞	団体	女子ハンドボール部
5	第2条2（1）ア	学長賞	団体	ボート部（女子）

※富山国際大学学生表彰規程細則に基づいて、行った。

【評価と今後の課題】

表彰は、3月の卒業式場で表彰されるが、7個人団体の推薦が提出されたが、学務委員会で1つはスポーツ競技で成績が全国大会での上位3以内に入っていないことと次年度に期待して対象外とした。もう一つは学部内での事であり学部長功労賞に変更し、表彰について卒業式が終了後、現代社会学部にて表彰されることとなった、

（2）キャリア支援センター

（1）庶務業務に関すること

各種調査、卒業生進路状況作成、高校訪問資料作成（3回）、「採用のための大学案内」パンフレット作成、ひとづくり財団助成、インターンシップ報告書作成、内定礼状作成・発送、年賀状作成、卒業生アンケート調査、運営会議・教授会資料作成業務。

【実施計画】

■各種調査

文部科学省・富山県・民間企業等より、大学の就職関係調査依頼に伴い、提出する。

■卒業生進路状況作成

5月開催予定の後援会理事会に配布するので、その頃までに作成する。

800部作成

■高校訪問資料作成（3回）

出身高校別に、就職情報を母校に出向き、説明を行う基礎データ作成する。

■「採用のための大学案内」パンフレット作成

10月開催予定の「企業・事業所・大学講演会」に参加企業に配布するので、その頃までに作成する。

3,000部作成

■ひとづくり財団助成

私立大学振興事業で、学生確保推進支援事業4年制の私立大学が優秀な学生を確保するために行う事業の助

成を得る。

■インターンシップ報告書作成、

11月開催予定の学内インターンシップ報告会に配布するので、その頃までに作成する。

150 ページ 500 冊作成

■内定礼状作成

平成 26 年 10 月 1 日以降、内定した企業(確実に内定した企業へ行くことを確認した企業)に対して、随時
令状を送付する。

■年賀状作成

平成 26 年度にインターンシップ協力企業・キャリア教育協力企業・「企業・事業所・大学講演会」の講
師・参加企業、「学内合同企業説明会」参加企業に年賀状送付

540 枚発送

■運営会議・教授会資料作成業務

毎月 1 回開催される運営会議・教授会資料作成業務を実施。

■各種調査

- ・卒業予定者の就職決定状況【富山県労働雇用課】 毎月、月末の内定状況をメールにて 10 日前後に報告
- ・新規大学等卒業者の求職・就職内定状況【富山公共職業安定所】
- ・学校基本調査(5/1 付調査) 【文部科学省】卒業後の状況調査票(学部毎)
2-1 (状況別卒業者数、入学年度別卒業者数、男女別)2-2 (職業別、産業別、男女別)
- ・学校法人基礎調査(5/1 付調査) 【日本私立学校振興】
(進路別卒業者数、産業別就職者数、男女別)
- ・就職指導に関するアンケート【HR 総合調査研究所】
- ・就職担当調査・学事スケジュール調査【(株)ディスコ】
- ・就職情報登録に関するアンケート【(株)ダイヤモンド・ビックアンドリード】
- ・就職情報のお届けに関するアンケート【(株)ジェイ・ブロード】
- ・就職情報サービス登録取扱いアンケート【(株)アクセスヒューマネクスト】
- ・キャリア、就職支援への取組み調査、外国人留学生人材活用促進事業【(株)マイナビ】
- ・2012 年度卒業者の就職状況調査【旺文社】
- ・2015 年卒就職情報提供に関するアンケート【(株)文化放送キャリアパートナーズ】
- ・大学生の就職活動解禁日繰り下げに関する調査【大学通信】
- ・就職担当部署各種アンケート【(株)栄美通信】
- ・学部別就職状況調査、就職者数上位 50 社【大学通信】
- ・学部別卒業後の進路【朝日新聞】
- ・学部別就職状況【旺文社】

■卒業生進路状況作成

進路決定届の提出データを基に、4 月 30 日付け進路状況を作成し、データ作成(学部別進路状況、職種別
就職状況、業種別就職状況、所在地別就職状況、就職先一覧)して、作成。

<配布先>

- ・企業(企業・事業所・大学講演会)・入試広報課(高校訪問、高校教員説明会等)
- ・総務課(後援会理事会・総会、学園理事会等)

■高校訪問資料作成(3 回)

入試広報課より卒業生就職先データ作成依頼有り、過去 2,3 年間のデータを出身校別に作成。

■「採用のための大学案内」パンフレット作成

「企業・事業所・大学講演会」(11 月開催)の企業(人事担当者)に渡すため、それまでにパンフレットを納
期させる。内容については、次年度の学生 PR 用として作成。

- ・キャリア支援センター長・次長・センター員で内容確認。
- ・業者選択をして見積・スケジュール計画依頼
- ・業者決定後、内容の打ち合わせをして骨格作成。
- ・キャリア支援センター運営会議で内容審議
- ・原稿依頼、データ作成・写真選択

<配布先>

- ・企業(企業・事業所・大学講演会及び求人票に同封)
- ・入試広報課(高校訪問、高校教員説明会)
- ・総務課(後援会理事会・総会、役員会)

■ひとづくり財団助成、

- ・次年度の要望調書(就職推進事業)作成・提出 ①県の様式に従って書類を作成 ※交付条件有
- ・交付申請書作成・提出 ①県の様式に従って書類を作成 ②学長までの伺書を作成し、承認後提出
※補助対象経費の支出は、交付決定のあった日以降からの支出になるので注意
- ・事業実績報告書作成・提出 ①申請事業が完了次第作成 ②県の様式に従って書類を作成(請求書添付)
③学長までの伺書を作成し、承認後提出

■「企業との事務書類手続き」

- ①依頼文の作成 ②エントリーシートの送付 ③「インターンシップの覚書」「同意書」「実習報告書」「実習内容報告書」の送付 ④賠償責任促進手続き ⑤事前挨拶書類の作成(評価表含む)

■インターンシップ報告書作成、

キャリア支援センター運営会議で役割分担を決定後インターンシップ参加学生、受入企業よりデータを集めて、実施報告書を作成(・担当教員に業務依頼・挨拶文・インターンシップの概要・今年度を振り返って)上記以外のデータは事務方で作成

- ・学生の文章は誤字脱字が多く確認が必要。担当ゼミ教員には確認してもらっているが、事務方での修正が必要。
- ・データ作成・修正及び結合作成
(はじめの挨拶、インターンシップ概要、目次、研修経緯一覧、受入先一覧、研修レポート、学生の成果、受入先アンケート結果、今年度の総括及び来年度に向けて、日報要約、インターンシップ実施要領)

<配布先>

- ・教職員
- ・学生(学内発表会(3年)、インターンシップ受講の仕方)
- ・企業(受入先企業)
- ・総務課(後援会理事会・総会等)

■内定礼状作成

平成26年10月1日以降、内定した企業(確実に内定した企業へ行くことを確認した企業)に対して、随時令状を送付。

■年賀状作成、

平成26年度にインターンシップ協力企業・キャリア教育協力企業・「企業・事業所・大学講演会」の講師・参加企業、「学内合同企業説明会」参加企業に年賀状送付

■運営会議・教授会資料作成業務。

審議事項、報告事項に提出する資料をセンター長、課長に確認し、2日前にデータを総務課・教務課に提出する。

※内定状況資料は、最新の内定率に変更して提出

【評価と今後の課題】

期日厳守の作業が多く、作業工程及び役割分担の見直しが必要となっている。特に各種調査については、民間企業における調査が多く、内容は似ているが調査に時間が取られて、大学の業務に障害が起きないように、提出企業の見直しを図る。

(2) キャリア教育に関すること

【実施計画】

現代社会学部におけるキャリア・デザイン講座(1年必修)、キャリア教育(2年)、インターンシップ(3年選択)、キャリア支援講座(3年必修)、就職試験対策講座、インターネットナビウエア(SPI)の授業運営に関わる業務。

尚、子ども育成学部では、キャリア入門講座(1年生)、キャリア支援講座Ⅰ(2年生)、キャリア支援講座Ⅱ(3年生)キャリア支援講座Ⅲ(4年生)、実習、インターンシップ等を独自に実施している。

キャリア支援センター運営会議にて、1月から3月にかけて協議し決定する。

【評価と今後の課題】

キャリア支援講座・子ども育成学部キャリア支援については、学生のアンケートを参考に内容を変えている。キャリア・デザイン講座は、担当教員が毎年工夫(2年前から少人数・2クラスに分けて実施)をして内容変更しながら組み立てている。

(3) データ管理に関すること

【実施計画】

卒業生就職先、在学生進路状況、企業データの管理。

なお、子ども育成学部でも独自のデータ管理を行っている。

■卒業生就職先

企業に求人票を発送する際に、その企業に卒業生が在籍しているか居ないか確認するために、在籍者調査を実施(1月実施)

■在学生進路状況

7月にキャリア支援講座の授業時に配布し実施

■企業データの管理

求人票発送及び企業データ修正、求人票に日付印を捺印(通年)

【実施内容】

■卒業生データ管理

・個々の就職データ管理

企業に求人票を発送する際に、その企業に卒業生が在籍しているか居ないか確認するために、在籍者調査を実施(1月実施)

・企業より回答を得たデータを元に卒業生データの修正・加筆

・卒業生アンケートデータも卒業生データに修正・加筆する(12月実施)

・企業訪問で得た情報も反映させる

■在学生データ管理

・進路登録カード

① 7月にキャリア支援講座の授業時に配布

② 夏休み期間中に自己分析と企業研究をさせる

③ 第1回模擬面接時に回収

※留学生で進学、帰国する学生は後期授業開始前までに回収

※3年前までは10分間の個別面談をして、学生の特徴を把握し、要注意学生をリストアップしていた。

現在は模擬面接の様子から学生の特徴を把握する。

※このカードを参考に、学生の情報と希望企業を照らし合わせて、求人票を紹介する。

④ 個人情報記載

・相談内容、気が付いた点等

・証明書発行企業名

・3年次までの単位修得数

・内定先、辞退先企業名

※カードの裏面は、個人情報となっているので取扱注意

⑤ 進路登録カードと一緒に、学生の履歴書、模擬面、接評価表、グループディスカッション、SPI答案用紙も個々に綴る

<内定後の手続き>

・進路内定(決定・辞退)届

① 進路が決定後用紙に記載

② 内定通知書のコピーを撮り一緒に綴る

③ 産業分類、職業分類は本人に確認する

④ 今後就活を続行するかの有無をきちんと把握する

⑤ この用紙を基に内定状況データに入力する

・就職状況報告書

① 進路が決定後用紙に記載

② 後輩学生のために、試験日程・適正検査・筆記試験内容・作文、小論文テーマ、面接内容を詳しく記入してもらう

③年度毎にファイルを作成し、次年度学生の参考資料として閲覧する

④証明書発行時には、このファイルの先輩情報を提供する

<進路状況調査依頼>

・進路状況における調査依頼

①4年ゼミ担当教員に対して調査を年2回実施

②就職先内定データを基にゼミ教員ごとに作成

③依頼文作成

④依頼文と進路状況調査票を配布

⑤調査票回収後に就職先内定状況データに反映させる

<内定状況情報>

別途「基本情報」に掲載。

■企業データ管理

<求人票受付>

・求人票発送及び企業データ修正

①求人票発送先データの作成(学部ごとに作成)

②会社名、所在地、統合、倒産等の確認をホームページ等で確認する)

③依頼文の作成(学部ごとに作成)

④求人票用紙の手配(学部ごとに作成)

⑤起案

⑥タックシール、封筒の準備

⑦求人票発送(採用のための大学案内、在職者調査も同封)

⑧郵便が届かなかった企業のデータ修正を行う

⑨卒業生データの企業名も修正をかける

・求人票に日付印を捺印

※企業人事担当者が、大学に来て求人票を提出された場合は、企業の求めている学生像を聞き出す。

・県内求人・県外求人・共通県内求人・共通県外求人 に分けてナンバーリングする

・求人票データの入力(ホームページより求人票データが確認でき、地域、業種、職種検索等も可能)

・求人票一覧の作成

・求人一覧表を学部別にホームページにアップする

・掲示板に求人票の掲示

・企業ファイルに求人票を綴る(新規の場合はファイルを作成)

・会社説明会及び学外ガイダンスのポスター、チラシ等も随時掲示する

※ 求人件数及び求人人数

3月31日現在の求人件数	県内	514件	県外	347件
求人人数	県内	2,223人	県外	21,662人

【評価と今後の課題】

求人票のデータ管理システムは複雑であり、業務的にロスが多いので、単純化を図る。また、大学ホームページより、求人票を閲覧できるが、見ている学生が少ない。大学に送付(来校)される求人は大切にして、学生にPRして、情報の早急化を図る。

(4) キャリア支援センター行事に関すること

■「企業・事業所・大学講演会」

【実施計画】

「企業・事業所・大学講演会」の講師関連、発送先リスト作成、案内発送、会場準備、報告書作成等運営に関する業務。

「平成26年度 富山国際大学 企業・事業所・大学講演会」

・日時：平成26年10月30日(木) 15:30～19:00

・場所：ホテルグランテラス富山

(住所：富山市桜橋通り2番28号 TEL：076-431-2211)

・受 付 : 15:00 から (3 階 薫風の間)

【大学説明】(3 階 薫風の間) 15:30 ~15:50

開会の辞

開会挨拶 学長

就職状況説明 キャリア支援センター長

【講演】(4 階 瑞雲の間) 16:00~17:30 (質疑応答含む)

演 題 「胸突き八丁アベノミクス」

講 師 NHK解説委員 山 田 伸 二 氏

【情報交換会】(3 階 清風の間) 17:40~19:00

開会挨拶兼乾杯 学長

ご歓談・名刺交換

閉会挨拶 キャリア支援センター長

【実施内容】

	平成 26 年度	平成 25 年度	平成 24 年度
参加企業数	66	58	69
講演会参加人数	76	68	84
情報交換会参加人数	64	60	52

【評価と今後の課題】

懇親会については、平成 24 年度より座席指定をして、教員と人事担当者が情報交換をしやすい環境をすることにより、以前より内容が密になり、参加者も増えた。今後は、アンケートを分析して、次回の改善に繋げる。

■「学内合同企業説明会」

【実施計画】

「学内合同企業説明会」の発送先リスト作成、案内発送、会場準備、参加学生への教育・指導、アンケート集計等運営に関する業務。

1. 目 的 : 学生が「業界」や「業種」について研究し、企業の採用計画・採用試験日程などを採用担当から直接情報収集することで、以降の就職活動を円滑に行えるようにすることを目的とする。
2. 日 時 : 平成 27 年 3 月 3 日 (火)・6 日 (金)【2 日間】
13:20 ~ 16:00 (企業受付開始 12:30~)
3. 会 場 : 富山国際大学 東黒牧キャンパス 厚生棟
4. 方 式 : ブース形式による説明 (1 回あたり 25 分間の説明を 5 ローテーション実施)
5. 対象者 : 平成 28 年 3 月卒業予定者 177 名の内、企業への就職希望者約 80 名
(留学生及び子ども育成学部一部含む)
6. 内 容 : ① 開会挨拶 (中島学長)
② 各ブースにて事業内容や採用計画についての説明を受ける (30 分×5 回)
③ 企業と教職員との情報交換 (随時)
④ アンケート記入
⑤ 閉会挨拶 (村瀬キャリア支援センター長)
7. 学生への事前説明会
日 時 : 平成 27 年 2 月 4 日 (水) 13:00
場 所 : 大講義棟 I
内 容 : 企業研究、事前教育・諸注意、マナー指導等

【実施内容】

平成 27 年 3 月 3 日 (火)

参加者企業 62 社

参加学生 94 人参加

※ 1 人 5 社企業訪問をすることを指導

平成 27 年 3 月 6 日 (金)

参加者企業 65 社
参加学生 94 人参加

※ 1 人 5 社企業訪問をすることを指導

【評価と今後の課題】

毎年実施している事業で、企業側からのアンケートを参考に少しずつ改善を図っている。今年度は企業側から要望が強かった 2 回に分けて欲しい要望を取り入れて実施した。例年より企業側と学生とが説明を聞く機会が多くなった。また、1 回の持ち時間を 30 分から 25 分に変更して、以前より移動がスムーズに進んだ。事前に訪問する企業を記載させ絞り込ませた状態だったが、企業研究が十分になされていない状況で今後の課題である。

(5) 学生相談に関すること

【実施計画】

カウンセラー・支援委員の来校日の調整及び保護者相談会に関する業務。

学生個々には、求人票・ガイダンス情報の案内、送付状やお礼状の書き方指導等を行い、「進路登録カード」には相談内容や受験先・証明書発行先など就職活動状況を記載する。

なお、子ども育成学部でも独自の学生相談業務を行っている。

【実施内容】

・学生の予約(予約表で管理する)

週に 2 回(原則水曜日・金曜日の午後)来てもらう学生 1 人に対して 1 時間相談。

内容については、進路登録カードデータに記載し個人データとして共有する。最近、心の病の学生が増えてきているので、その様な学生は、相談回数が増える傾向にある。

予約の際は、カウンセラーと相談して、なるべく多くの学生が受けられるように配慮し相談受付をする。

・履歴書・エントリーシート・模擬面接指導

・富山県職業安定所から、週 1 日相談員が来て、企業情報や就職相談に来校

・コーディネーターとして、元民間企業人事担当者 2 人来ていただき、相談(企業情報)・指導(履歴書・エントリーシート・模擬面接指導)をする。内容によっては、ゼミ担当、キャリアカウンセラーと情報交換しながら実施する。

・事務職員は、学生がカウンターに来たら、相談(企業情報)・指導(履歴書・エントリーシート・模擬面接指導)をする。内容によっては、ゼミ担当、キャリアカウンセラーと情報交換しながら実施する。

3・4 年次生の学生を対象に、就職に苦勞をする学生の保護者をリストアップして、金曜日、土曜日、日曜日を設定して、保護者相談会を実施。センター長と実施時期を相談して、臨機応変に実施する。(8 月)

・該当保護者に開催通知発送 → 相談時間を調整 → 情報収集(専門学校・求人票等)

・総務課で、相談内容のアンケートを実施し、就職相談要望の保護者と面談する。(6 月)

・学生課で、相談内容のアンケートを実施し、就職相談要望の保護者と面談する。(10 月)

【評価と今後の課題】

学生が予約しても、無断で予約日に来ないケース数例あり、学生に連絡をするが、忘れていたとか、急にガイダンスが入った等の理由が返ってくるが、学生に対して社会的マナーに反しているので、厳重に注意をしている。また、学生の性格を見て、数人の面接指導を受けた方が良いと感じた学生には、その様に指導をしている。

(6) 企業訪問・新規開拓に関すること

【実施計画】

就職先内定お礼訪問、新規開拓企業訪問を行う。

・就職状況報告書を参考に、内定した企業にお礼に行く。次年度の採用計画も聞いてくる。

・新規開拓・OBOG 内定企業

進路登録カードの希望企業を参考に、情報収集に行く。

・コーディネーター(民間企業人事経験者)企業開拓。

・緊急対応企業(内定辞退等)

基本的には、学生に謝りに行かせる。大学からも謝りに行く。

【実施内容】

・2013 年度(第 5 回)平成 25 年 9 月 24 (火)開催のキャリア支援センター運営会議にて、ゼミ別にゼミ担当者が、内定先お礼訪問する事を確認して、教授会で依頼し実施

〔企業訪問報告書様式〕

・新規開拓等について

コーディネーター(民間企業人事経験者)が中心に企業開拓実施
大手企業の支店での新規採用開拓を実施し、内定まで進めた。
学生の希望を聞いて、富山県内の中小企業人事担当者をお願いして、内定まで進めた。

・OBOG 内定企業

卒業生で、社会経験のある人材のお願いが4社から依頼あり、2社紹介して内定した。
※卒業生が活躍しており、大学を信頼して依頼に来られた。

・緊急対応企業(内定辞退等)

- ① 内々定の承諾書を企業に未提出で、電話で人事担当者にお断りの連絡をしたとのことで、学生と人事担当者の解釈が違い、企業よりクレームの電話があり、社長及び人事担当者にお詫びに行った。
- ② ここ数年内定をしている企業で、内々定を頂いて断った事により、人事担当者より電話による内容説明があり、お詫びに行った。

ただし、その後事務関係で早急に人材が必要となり、卒業生が必要との事で紹介し、内定した経緯がある。

※基本的に、内々定を辞退するときは、本人が直接企業に出向きお詫びする事を指導している。

【評価と今後の課題】

企業にお礼等をしに面談すると、企業より信頼が得ている所もあるが、これは、現役で働いている卒業生の評判が良いからである。調査により卒業生が入社して、何らかの原因で退職しているケースがある。一人も辞めていない会社はほとんどないのが現状であり、今後、キャリア教育の中で検討し、企業選択の大切さを教えていく。転勤を嫌がる学生が多く、選択企業の幅を狭めているので、これに対してもテコ入れが必要である。

また、10月を過ぎて内定を辞退する学生が出てきて、学生は勿論、教職員も早急に人事担当者に謝りに行った事例があり、次年度は、慎重に企業選択する様に指導する。

(7) インターンシップに関する事

【実施計画】

会議で定められた毎年のスケジュールに基づき実施する。

【実施内容】

- (1) 受入先候補の決定および受入依頼は、富山県インターンシップ推進協議会の協力のもと、参加学生の希望に基づき、キャリア支援センターで行った。

今年度のインターンシップに参加した学生は、環境デザイン専攻9名、観光専攻7名、経営情報専攻16名の計32名である。マッチングが成立し、学生が研修を行った企業・機関等は、26にのぼる。そのうち6つの企業・機関には、各2名の受入れをしていただいた。

- (2) 受入先と参加学生とのマッチングは、学生の希望に基づいて行だったが、希望に沿えなかった学生については、話し合い等により研修先を決定した。その結果、研修先については、おおむね学生の希望に応えられる業種・職種の受入先が確保できたといえる。しかし、残念ながら、1名については、希望先への受入れが叶わず、参加辞退となり、いわゆるミスマッチが発生した。

なお、受入先企業・機関等には、県インターンシップ推進協議会の統一様式である「エントリーシート」を、学生本人が記入のうえ提出している。

- (3) 受入先には、受入条件確認書記載の内容で依頼した。昼食費・通勤費等については、学生の自己負担としている。研修期間中の事故に対応するため、学生負担による「学研災・賠償責任保険」への加入も行っている。

- (4) 事前に、『覚書』(大学と受入先間)を締結し、受入先に対しては学生の『同意書』を提出した。

- (5) 研修プログラム

受入先の個別的事情を反映させるべく、研修プログラム(実習内容)の作成は、基本的には受入先に委ねている。ただし、過去に研修内容につき当該学生・大学からの要望提出や協議を望まれた研修先に対しては、可能な限り、その要請に応えるよう努めた。

【評価と今後の課題】

平成26年度より、インターンシップの該当年次を1年次(後期からの参加が望ましい)～4年次となり、研修生が一人でも多く参加し、就業意識を高めて欲しい。また、平成27年度就職活動の時期が夏季と重なることに

より、インターンシップの受け入れ企業との関係を模索しなければならない。早急に計画を立てて対応していく。

(8) 大学コンソーシアム富山に関すること

【実施計画】

富山県内7高等教育機関に所属する学生（主に3学年）を対象とした県内企業の訪問研修を立案・企画の実施（県事業）。

【実施内容】

- 事業概要 (1)開催日時 平成26年8月19日（火）～平成26年 9月18日（木）
(2)会 場 富山国際大学 東黒黒牧キャンパス
(3)対 象 者(参加者又は受講者) 147名（学生128名、教員11名、職員8名、企業訪問 9月5日（木））
(4)内 容 ・コースは10コース 1コース2企業訪問
・募集は 各コース20名×10コース＝200名 学生参加者 109名
①コース別ミーティング 8月19日（火）参加者 87名（富山国際大学学生40名）
②企業訪問 8月26日（火）参加者109名（富山国際大学学生50名）
③成果発表会 9月18日（木）参加者 40名（富山国際大学学生20名）

【評価と今後の課題】

今年度はインターンシップ等と時期的に重なった事もあり、参加数が少なかった。ミーティング、訪問研修、成果発表の3ステップ参加は必須であり、特に成果発表の参加は非常に少なかった。3ステップ参加を義務化する。訪問研修の企業選定については、選定企業について、昨年度の反省を踏まえて、中小企業も入れて実施した。対象学年を1年生・2年生も含めて幅広く応募する事も検討していく時期に来ている。

(9) キャリア支援センター運営会議関連に関すること

前出に掲載済み

(3) 国際交流センター業務

(1) 海外機関との学术交流に関すること

【実施計画】

海外提携校を拡大し、学生交流・学术交流などを通じて活発な国際交流を行う。

【実施内容】

- *平成26年度 新たに協定を結んだ学校
中国 ハルビン理工大學栄成学院（学术交流及び学生交換）H26.5.14締結
- *協定更新
欧亜ビジネスマネジメント学院／EMBA（学术交流及び学生交換）H26.6.5更新
- *日本語学校
長野国際文化学院（留学生受入）H27.1.20締結

【評価と今後の課題】

大学1校、日本語学校1校と新たな協定を結び、既協定校1校と延長更新を規定した協定で更新した。
中国との協定が多く、日本人学生の留学先としての多異国（英語圏）の大学との交流を開拓して行きたい。

(2) 外国人留学生に関すること

【実施計画】

外国人留学生の学部生・交換留学生の在留資格取得、受入準備、空港送迎、生活支援・指導、国際交流事業の参加、留学生研修・交流事業と多岐に亘る。

【実施内容】

- *H26年度後期期受入留学生（編入学生2名、交換留学生1名）の入学手続きを7月に実施
- *H27年度前期受入留学生（学部生5名、交換留学生8名、研究生2名）の入学手続きを12月に実施
- *在留期間更新申請手続き（学部生10名、研究生3名）を5月に実施

＊奨学金（富山県国際交流奨学金4名、学習奨励費2名、朝日国際財団5名）申請手続きを6月に実施

＊受入学生数 25名

- ・学部生 14名 天津社会科学院10名、青島徳橋日本語学校1名、長野国際文化学院1名、大連海洋大学編入学2名)
- ・交換留学生 11名 大連海洋大学5名、ウラジオストク経済サービス大学1名、大邱大学1名、中国海洋大学3名、PSU1名(前年度より)

＊毎月2回、水曜午後に新入生オリエンテーションを実施(銭輝支援員)

＊下記イベントを実施

国際交流サロン(田植え体験)	4月 2日(水)	5名
外国人留学生富山県内研修(富山市内お花見)	4月13日(日)	20名
外国人留学生富山県内研修(チューリップフェア会場 五箇山)	4月29日(土)	26名
外国人留学生富山県内研修(中部山岳国立公園)	5月10日(土)	14名
国際交流サロン(氷見ハトムギ種まき体験)	5月25日(日)	10名
国際交流サロン(田植え体験)	5月28日(水)	2名
国際交流サロン(百万石まつり参加)	6月 1日(土)～2日(日)	8名
国際交流サロン(留学生歓迎BB)	6月 8日(日)	13名
外国人留学生と中国語を学ぶ社会人との交流会	7月16日(水)	18名
国際交流サロン(とがり山登山)	7月19日(土)	5名
外国人留学生教養演習(佐々成政戦国時代祭り参加)	7月27日(日)	4名
国際交流サロン(日本人学生との富士登山)	8月17日(日)～19日(火)	20名
外国人留学生教養演習(巻き寿司体験)	10月29日(水)	23名
外国人留学生富山県内研修(黒部峡谷紅葉狩り)	11月 2日(日)	22名
外国人留学生教養演習(書道体験)	11月 7日(木)	12名
富山市国際交流フェスティバル参加(留学体験発表)	11月10日(日)	17名
外国人留学生日本文化体験(華道体験)	11月17日(水)	19名
富山国際大学留学生総会・懇親会	12月19日(金)	57名
国際交流サロン(スキー教室)	1月31日(土)～2月1日(日)	10名
外国人留学生富山県内研修(立山山麓雪の祭典参加)	2月14日(土)	14名

【評価と今後の課題】

国際交流センターで最も多く費やされる業務である。留学生の受入については協定校との連絡から始まり学生の情報収集、ビザ取得のための在留資格申請書類の審査、入国管理局への申請、許可証の送付、受入アパートの準備、入国後の役所・銀行・携帯電話等の手続き、日本での生活習慣のオリエンテーション、日常生活の相談、留学生への連絡、奨学金申請・支給、緊急時の支援等を行った。協定校からは面倒見の良い大学として評判を得ているが、限らない援助は、留学生にとって日本社会で生活するための支援にならないと思っはいるが、自立できる方策を考慮している。

(3) 本学学生の海外留学に関すること

【実施計画】

教員が本学独自の海外留学・研修プログラムの概要を作成し、希望学生への説明会を4月に実施する。留学希望学生とは協定校と受入協議を行い、派遣校の情報や留学中の諸注意、留学許可を受けるための書類作成等、海外留学のための事務処理全般を実施。異文化研修や国際交流実習についても担当教員による事前研修を経て実施、いずれも海外旅行危機管理についての事務処理を行う。

【実施内容】

＊派遣学生数 27名

インターナショナルプログラムズ(長期)

竹内汰成 大連海洋大学(中国) 2013.8.21～2014.8.20 継続中

柳澤佑今 大連海洋大学(中国) 2013.8.27～2014.8.26 継続中

平野優美 聖公会大学(韓国) 2014.2.28～2015.2.17

インターナショナルプログラムズ(短期)

中川采美 サザンクロス大学(豪州) 2014.8.9～2014.9.11 5週間

竹腰莉緒菜 サザンクロス大学(豪州) 2014. 8. 18～2014. 8. 30 2 週間
異文化研修(中国) 南通市・蘭溪市・杭州市・上海市 2014. 8. 26～2013. 9. 2 8 日間
現代社会学部 9 名
異文化研修(韓国) ソウル・大邱 2014. 9. 14～2014. 9. 21 8 日間
現代社会学部 4 名
国際交流実習(タイ国) チェンマイ 2015. 2. 24～3. 17 22 日間
現代社会学部 9 名

【評価と今後の課題】

昨年より海外へ渡航する学生が少なかった。特にフランスへの異文化研修は国際情勢により中止となった。留学先の選定から協定校への連絡、担当教員と連携、派遣前の海外旅行危機管理契約、派遣中の連絡、留学終了後の届出書の提出、留学奨学金の手続き等を行った。派遣学生の不安解消のため、派遣先とは緊密な情報交換で受入条件、生活条件等の情報を収集し学生に事前周知したい。

(4) その他の国際交流に関すること

国際交流シンポジウムは隔年開催により未実施

富山県留学生等交流推進協議会の運営会議、総会への出席

富山市国際交流フェスティバルに参加し外国人留学生の留学体験と日本人の留学報告を発表する

留学生総合住宅補償業務は、大学が機関保証人となり留学生の民間アパート契約

日本留学試験中部(北陸)ブロック会議に所属し、近年はメールによる審議となっている。

平成 26 年度学務部事業については、富山国際大学が目指す学生を育成するために、窓口対応、教育支援を実施してきたことから、卒業生アンケートでも満足度が前年度よりやや高くなっている。しかし、スタッフ数の減少、職員の高齢化など、現在の配置ではほぼ限界に達している。加えて、労働基準監督署から就業時間管理の指導を受けつつ、質の高い学生対応と輻輳する大量の事務処理を就業時間内での完結が困難となっており、今後学生満足度を更に高めるサービスの在り方、事務業務の省力化方策を探っていくことが喫緊の課題である。

3. 基本情報

- ・平成26年度 在籍者数（平成26年5月1日現在）

H26. 5. 1現在

	学部	学科	総数	男女別数		県内外別数		男女県内外別数			
				男	女	県内	県外	男県内	女県内	男県外	女県外
1年生	現代社会	現代社会	111	80	31	88	23	67	21	13	10
	休学		0								
	子ども育成	子ども育成	101	29	72	95	6	27	68	2	4
	休学		0								
	合 計		212	109	103	183	29	94	89	15	14
	休学		0	0	0	0	0	0	0	0	0
2年生	現代社会	現代社会	95	60	35	61	34	40	21	20	14
	休学		3	2	1	3		2	1		
	子ども育成	子ども育成	85	18	67	80	5	15	65	3	2
	休学		1	1		1		1			
	合 計		180	78	102	141	39	55	86	23	16
	休学		4	3	1	4	0	3	1	0	0
3年生	現代社会	現代社会	100	68	32	81	19	54	27	14	5
	休学		1	1		1		1			
	子ども育成	子ども育成	80	21	59	72	8	20	52	1	7
	休学		0								
	合 計		180	89	91	153	27	74	79	15	12
	休学		1	1	0	1	0	1	0	0	0
4年生	現代社会	現代社会	100	73	27	72	28	53	19	20	8
	休学		2	2		2		2			
	子ども育成	子ども育成	78	21	57	70	8	18	52	3	5
	休学		0								
	合 計		178	94	84	142	36	71	71	23	13
	休学		2	2	0	2	0	2	0	0	0
全学年	現代社会	現代社会	406	281	125	302	104	214	88	67	37
	休学		6	5	1	6	0	5	1	0	0
	子ども育成	子ども育成	344	89	255	317	27	80	237	9	18
	休学		1	1	0	1	0	1	0	0	0
	合 計		750	370	380	619	131	294	325	76	55
	休学		7	6	1	7	0	6	1	0	0

※表内人数には交換留学生を含まない。
※合計には休学者数を含む

- ・平成26年度 退学者数等（平成27年3月31日現在）

《現代社会学部》

	1年(26年度)	2年(25年度)	3年(24年度)	4年(23年度)	計
入学者数	110	98	105	104	417
3月末現在在籍者	109	91	98	91	389
留年者数	0	1	1	0	2
小計	109	92	99	91	391
退学者	1	6	6	13	26
退学率	0.9%	6.1%	5.7%	12.5%	6.2%

《子ども育成学部》

	1年(26年度)	2年(25年度)	3年(24年度)	4年(23年度)	計
入学者数	101	85	78	82	346
4月現在 在籍者	101	83	76	77	338
留年者数	0	1	0	0	1
小計	101	84	80	77	342
退学者	0	2	1	6	9
退学率	0.0%	2.4%	1.3%	7.3%	2.6%

・平成 26 年度就職内定状況

平成 27 年 4 月 13 日現在

単位：人

学部	性別	学生数	内休学者数	卒業 者数	就職 希望 者	内 定 者	内定率	未内 定者	進学・ 留学 希望者	内進学 留学決 定者	進学も 就職も しない	卒業 延期者
現代社会	男	72	0	71	61	58	95.1%	3	2	2	8	1
	女	27	0	27	22	21	95.5%	1	2	2	3	0
	計	99	0	98	83	79	95.2%	4	4	4	11	1
子ども育成	男	21	0	21	18	18	100.0%	0	3	3	0	0
	女	57	0	56	55	55	100.0%	0	1	1	0	1
	計	78	0	77	73	73	100.0%	0	4	4	0	1
合 計	男	93	0	92	79	76	96.2%	3	5	5	8	1
	女	84	0	83	77	76	98.7%	1	3	3	3	1
	合計	177	0	175	156	152	97.4%	4	8	8	11	2

・平成 26 年度図書館基本情報

【貸出冊数】

<東黒牧キャンパス>

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
大学生	冊数	45	63	92	75	34	14	92	88	74	40	25		642
	人数	30	42	63	55	19	6	59	60	49	29	12		424
研究生	冊数	9	11	16	15		7	7	2	2				69
	人数	5	7	11	11		5	5	2	2				48
教職員	冊数	21	22	18	21	1	22	16	10	8	2	13		154
	人数	5	7	3	6	1	5	5	3	4	1	3		43
非常勤講師	冊数	2	2	1	3			2						10
	人数	2	2	1	2			2						9
職員	冊数	2	3	2		1	1			1	5	3	2	20
	人数	2	3	2		1	1			1	4	2	2	18
臨時職員	冊数	2	2	4	1				3	1	3	8	4	28
	人数	1	1	3	1				3	1	3	5	3	21
聴講生	冊数													0
	人数													0
委託訓練生	冊数								4	1	6			11
	人数								4	1	3			8
学外者	冊数	4				4	4					2	7	21
	人数	2				2	3					1	3	11
合計	冊数	85	103	133	115	40	48	117	107	87	56	51	13	955
	人数	47	62	83	75	23	20	71	72	58	40	23	8	582

<呉羽キャンパス> 短大図書館利用者を含む

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
大学生	冊数	147	230	130	178	47	8	137	169	201	83	41	12	1,383
	人数	70	122	67	93	21	5	74	91	104	44	20	7	718
短大生	冊数	177	179	199	142	92	21	205	162	162	148	28	22	1,537
	人数	93	101	105	84	40	9	106	82	82	78	16	9	805
大学教員	冊数	2	14	24	10	25	11	18	21	21	5	6		157
	人数	1	3	5	1	4	2	3	3	5	2	2		31
非常勤講師	冊数	24	34	38	30	25	4	19	20	19	19	11		243
	人数	12	14	13	14	6	2	8	7	7	10	7		100
高校専任教員	冊数				13	2	4				3	3	6	31
	人数				3	1	1				1	1	3	10
短大教員	冊数	55	47	65	28	16	32	41	20	58	38	44	26	470
	人数	21	20	24	12	10	10	14	8	16	12	16	12	175
職員	冊数	8	25	29	22	6	1	10	4	6	5	5	19	140
	人数	3	13	11	10	5	1	3	2	4	2	3	5	62
幼稚園	冊数		6		10									16
	人数		1		1									2
小計	冊数	413	535	485	433	213	81	430	396	467	301	138	85	3,977
	人数	200	274	225	218	87	30	208	193	218	149	65	36	1,903

【入館者数及び開館日数】 <東黒牧キャンパス>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入館者数	1923	2021	2001	2539	1100	390	3030	1660	1824	1139	674	163	18464
開館日数	20	20	20	22	17	20	22	17	18	17	19	16	228
平均入館者数	96.15	101.05	100.05	115.41	64.71	19.5	137.73	97.65	101.33	67	35.47	10.19	80.98

Ⅱ. 委員会・部会（評価・課題）

1. 学務委員会

（1）学務委員会

【目標】

富山国際大学学務委員会規程第2条に規定する審議内容のうち、平成26年度は次の事項を積極的に推進する。

- ① 教育課程及び授業方法の改善、シラバスなどの改善について
- ② FD（ファカルティ・デベロップメント）の実施
- ③ 学生による剽窃行為の防止について
- ④ 奨学金制度の改善について
- ⑤ GPA 数値の活用について
- ⑥ 授業外活動、諸活動活性化について
- ⑦ 広報誌「コスモス通り」やホームページ等による学生生活の広報について
- ⑧ その他、年度内に教学・学生系業務で決定しなければならない案件処理について

【実施内容】

・構成メンバー：

尾畑学務部長、彼谷学務部次長、辻井教授、佐藤(悦)准教授、助重准教授、村上准教授、小西准教授、大平講師、山崎参事、小比賀呉羽キャンパス事務室事務長、岩木学生課長、酒井教務課長、山田主査
(以上13名)

・会議内容

開催日時・場所・出欠	審議事項	報告事項
平成26年4月23日（水） 13:20～14:55 東黒牧C・呉羽C Web 会議 出席：13名 欠席：0名	1. 委員の役割分担について 2. 学務部年間行事について 3. 奨学金・奨励金について 4. スポーツ文化交流会について 5. 卒業生アンケートについて 6. 学生団体結成と解散について 7. 編入学の修得単位認定について 8. 学務部に関するアクションプランについて 9. その他	1. 教務課からの報告について 2. 学生課からの報告について 3. 学部学務委員会について 4. その他
平成26年5月28日（水） 15:00～16:25 東黒牧C・呉羽C Web 会議 出席：12名 欠席：1名	1. スポーツ文化交流会について 2. 第1種奨学金・奨励金について 3. 「夢への架け橋助成事業」について 4. 学生団体結成と解散について 5. 学務部に関するアクションプランについて 6. 学務部自己点検評価報告について 7. その他	1. 教務課からの報告について 2. 学生課からの報告について 3. 学部学務委員会について 4. その他
平成26年6月4日（水） 13:35～15:00 東黒牧C・呉羽C Web 会議 出席：11名 欠席：2名	1. 平成27年度学年暦について 2. 授業評価アンケート、学生アンケートについて 3. その他	1. 教務課からの報告について 2. 学生課からの報告について 3. 学部学務委員会について 4. その他
平成26年6月25日（水） 12:35～13:05 東黒牧C・呉羽C Web 会議 出席：11名 欠席：2名	1. 学生の処分について 2. その他	
平成26年7月2日（水） 13:35～15:30 東黒牧C・呉羽C Web 会議 出席：10名 欠席：3名	1. 授業評価アンケート等について 2. 剽窃行為防止対策について 3. 平成27年度学年暦について 4. 学生団体結成について 5. その他	1. 教務課からの報告について 2. 学生課からの報告について 3. 学部学務委員会について 4. その他
平成26年8月6日（水） 9:30～11:10	1. アクションプランについて 2. 平成27年度教育課程の改正について	1. 教務課からの報告について 2. 学生課からの報告について

東黒牧C・呉羽C Web 会議 出席：11名 欠席：2名	3. 同窓会費について 4. その他	3. 学部学務委員会について 4. その他
平成26年9月1日（月） 9：30～11：05 東黒牧C・呉羽C Web 会議 出席：10名 欠席：3名	1. 後期オリエンテーションについて 2. 学生生活アンケートについて 3. 9月卒業について 4. その他	1. 教務課からの報告について 2. 学生課からの報告について 3. 学部学務委員会について 4. その他
平成26年10月1日（水） 13：30～14：50 東黒牧C・呉羽C Web 会議 出席：11名 欠席：2名	1. 学生の退学・休学・復学について 2. 平成27年度学年暦について 3. 平成27年度講義要綱及び学生便覧編集方針について 4. アクションプランについて 5. その他	1. 教務課からの報告について 2. 学生課からの報告について 3. 学部学務委員会について 4. その他
平成26年11月5日（水） 16：20～18：10 東黒牧C・呉羽C Web 会議 出席：12名 欠席：1名	1. 学生の休学について 2. 大学コンソーシアム富山の単位互換について 3. 初回授業での授業内容の説明に関する調査について 4. GPA活用策について 5. 成績表について 6. その他	1. 学生生活アンケート等について 2. 教務課からの報告について 3. 学生課からの報告について 4. 学部学務委員会について 5. その他
平成26年12月3日（水） 13：30～14：50 東黒牧C・呉羽C Web 会議 出席：13名 欠席：0名	1. 大学コンソーシアム富山単位互換提供科目について 2. 平成27年度講義要綱、学生便覧編集方針（一部修正）について 3. 平成27年度研究生、科目等履修生募集要項について 4. 平成27年度学年暦について 5. その他	1. 教務課からの報告について 2. 学生課からの報告について 3. 学部学務委員会について 4. その他
平成27年1月5日（月） 16：10～18：10 東黒牧C・呉羽C Web 会議 出席：13名 欠席：0名	1. 富山県寄附講義について 2. 平成27年度講義要綱について 3. 学則改正について 4. 奨学金制度について 5. GPAの活用について 6. その他	1. 教務課からの報告について 2. 学生課からの報告について 3. 学部学務委員会について 4. その他
平成27年2月5日（木） 14：30～18：10 東黒牧C・呉羽C Web 会議 出席：13名 欠席：0名	1. 退学・休学について 2. 学生表彰の推薦について 3. 学則改正について 4. 教学系関連規程の改正について 5. 外国人科目等履修生について 6. GPAの活用について 7. 奨学金制度について 8. 卒業生アンケートについて 9. 学生特別課外活動書の様式について 10. その他	1. 教務課からの報告について 2. 学生課からの報告について 3. 学部学務委員会について 4. その他
平成27年3月2日（月） 13：30～14：40 東黒牧C・呉羽C Web 会議 出席：12名 欠席：1名	1. 退学・休学について 2. 学位記授与式の代表学生について 3. 平成27年度前期オリエンテーションについて 4. 「夢への架け橋助成事業」について 5. その他	1. 教務課からの報告について 2. 学生課からの報告について 3. 学部学務委員会について 4. その他
平成27年3月30日（月） 13：30～15：00 東黒牧C 本部棟2階 大会議室 出席：15名 欠席：1名 (平成27年度委員も出席)	1. 休学・復学について 2. 第2種奨学金について 3. 自己点検評価について 4. その他	1. 教務課からの報告について 2. 学生課からの報告について 3. 学部学務委員会について 4. その他

【評価】

教育目標の明確化に関しては、昨年度策定したカリキュラムポリシー(CP)、ディプロマポリシー(DP)を平成

27年度のシラバスに明記した。また、CPは平成27年度の学生便覧への掲載にあたって、よりわかりやすい文言にするなど、学生への浸透に向けた取り組みを進めた。また、両学部においてCP・DPに沿ったカリキュラム・ツリーを策定した。

学生の成績評価に関しては、GPAの活用策を検討した。従来行ってきた奨励金・奨学金給付の判定に加え、成績不良者への学修指導等にも活用することにした。また第2種奨学金(Ⅱ)〔諸活動特待生〕の給付判定に関しては、部活動で努力している学生のモチベーションを上げるため、全国大会出場者や上位入賞者にはGPAを加算する新制度を設けた。近年各大学で問題となっている卒業論文・レポート等の剽窃行為については、防止に向けた注意喚起を行い、学生・教員への周知徹底を図った。

学生生活やキャンパス活性化への取り組みに関しては、平成25年度から学友会・大学祭実行委員会・クラブ会が主体となり、教職員はサポートするよう方向転換を図ってきた。平成26年度には現代社会学部の新入生オリエンテーションの歓迎行事を学友会が主体となって進め、クラブ会が部・サークルの紹介と勧誘を行った。この結果、部・サークルや学友会・大学祭実行委員会に加入する1年次生が大幅に増加し、学内における学生活動が活発化した。冬季に東黒牧キャンパスで開催した「クリスマスイベント」では、学友会や部・サークルの学生が多数集まってデコレーションを行うなど、学生が能動的に大学を盛り上げようとする動きが広まり、大学における取組に対する学生の参加意識が向上した。

【課題】

- ①教育課程の見直し・改善…現代社会学部では教養科目を中心にカリキュラムの見直しを行い、平成28年度入学生以降のカリキュラムを一部改定すべく検討を進めている。このため、当初、平成26年度の導入を予定していたナンバリングも、現代社会学部のカリキュラム改定にあわせて導入を目指す。また、学年暦の編成にあたっては、補講の一部や両学部共通科目を土曜日や休暇期間中に開講してはどうかという意見もあり、これらの点も含めた検討を進めていく。
- ②GPAの成績表への明記と学力向上に向けた活用…現状では学生やゼミ担当教員がGPA数値を正確に把握する手段がないため、成績表にGPAを表記して学生自身がGPAの数値を確認できるようにする。また、ゼミ担当教員等が学生のGPA数値を把握することで、より適切な学修指導を行えるようにする。
- ③授業外活動の活性化とその評価…授業外活動やクラブ活動の成果が当事者以外の学生や保護者、地域社会に十分伝わるよう、学内の電子掲示板やホームページで活動予告や活動成果を公表していく。また、平成26年度から導入した諸活動特待生へのGPA加算制度は、特待生以外の学生の活動成果(ボランティア活動や文化系サークルの活動、正課授業以外での資格取得等)に適用することが困難であるので、ポイント制度等新たな評価の仕組みをつくり、学生のモチベーションを上げるようにする。応募団体が固定化している「夢の架け橋助成事業」についても、従来は対象外としていたゼミ単位での活動を対象に含めるなどし

(2) 教養教育検討部会

【目標】

現在、社会へ巣立つ学生のキャリアにとって教養教育の重要性が見直されている。これを受け、富山国際大学学務委員会規程第8条第2項に定める事項のなかから、優先順位をつけて検討していくこととする。

今年度は、①各学部で教養科目担当者と部会メンバーによる話し合いの機会を設け、諸課題を整理確認する、②自校教育を試行的に実施し、教育内容や課題等の整理検討を行い、次年度に向けた実施体制を整える、を行動計画とした。

【実施内容】

・構成メンバー

彼谷学務部次長(部会長)、尾畑学務部長、辻井教授、佐藤准教授、酒井教務課長、小比賀呉羽キャンパス事務長

・会議内容

開催日時・場所・出欠	審議事項	報告事項
平成26年4月23日(水) 15:00~15:30 東黒牧C・呉羽C Web会議	1. アクションプランに伴う教養教育のあり方と3カ年計画について	

出席：6名	2. 「富山国際大学の歴史と基本理念」の講義時間確保について	
平成26年6月4日(水) 15:00～15:30 東黒牧C・呉羽C Web 会議 出席：6名	1. アクシヨンプランに伴う教養教育について 2. 単位互換科目について	
平成26年10月29日(水) 12:30～12:50 東黒牧C・呉羽C Web 会議 出席：6名	1. アクシヨンプランに伴う教養教育について 2. 非常勤講師の年齢制限について	

【評価】

平成26年度は、アクシヨンプランに伴う教養教育のあり方について、具体的に3カ年計画を設定し、初年度の目標実施に向け活動することとなった。具体的には、「富山国際大学の歴史と基本理念」について教養演習の中で取り組むことを確認した。また、授業科目のシラバスの中に、「共存・共生」「時代への潮流」という大学の理念を明記する体制が整った。大学コンソーシアム単位互換科目についても、後期から順次開講することができた。

【課題】

二つのキャンパスに共通する教養科目の設定の可能性と実施方法については、今後も継続して検討する必要性が指摘された。

(3) FD推進部会

【目標】

両学部に通じるテーマを設定して全学FD研修会を実施することで、全学的なFD活動への意識や成果を高める。

【実施内容】

- ・構成メンバー：尾畑納子、小西英行、彼谷環、辻井満雄、酒井誠、山田太郎
- ・会議内容

開催日時・場所・出欠	審議事項	報告事項
平成26年9月1日(月) 11:15～11:50 東黒牧C・呉羽C Web 会議 出席：6名(うち代理1名) 欠席：1名	1. 部会長に小西英行を選出した。 2. 平成27年2～3月に現代社会学部で予定しているFD研修会を全学開催とする件を審議し、内容を含めて継続協議となった。	1. 両学部のFD活動の現状報告が行われた。
平成26年11月5日(水) 18:10～18:30 東黒牧C・呉羽C Web 会議 出席：5名 欠席：1名	1. 今後全学でのFD研修会を隔年で両学部が主催してはどうかとの提案があり、協議の結果、各学部で検討後に再度調整することとした。 2. 平成26年度FD研修会の開催について、両学部間で日程調整していくこととした。	
平成26年12月3日(水) 14:50～15:00 東黒牧C・呉羽C Web 会議 出席：6名 欠席：0名	1. 平成26年度FD研修会の日程調整について、再度検討することとした。 2. 平成27年度予算要求について、全学FD研修会については予算化し、学部単位はそれぞれの判断とした。 3. 平成27年度については、全学FD研	

	修会について、速やかに検討することとした。	
--	-----------------------	--

・研修内容

開催日時・場所・出欠	実施内容
平成 27 年 3 月 4 日 (水) 15:00～16:30 呉羽 C 子ども育成棟 E 館 406 教室 参加：19 名 (うち、現代社会学部 2 名)	「第 1 回全学 FD 研修会」 ・「地域社会参加活動：成果と課題」 コーディネーター：彼谷環 ・特色ある科目として学部開設当初より 1 年次必修科目に設定している「地域社会参加活動」が学生の進路選択に与える影響と、この科目の専門領域への接続性と課題について議論した。
平成 27 年 3 月 11 日 (水) 13:30～16:30 東黒牧 C 4 号館 401 教室 参加：22 名 (うち、子ども育成学部 3 名)	「第 2 回全学 FD 研修会」 ・講演：「富山国際大学の学生にとって良い授業とは？」 講師：上野寛子（明治学院大学教養教育センター） 田中友理（明治学院大学心理学部心理学科 4 年） ・コーディネーター：小西英行 ・現代社会学部の学生及び教員に対して、アンケートを実施し、「学生と教員の間の、良い授業に対する考え方のギャップ」を外部講師に分析頂き、本学教員の今後の③授業改善の「特効薬につながるヒント」を具体的に検討した。

【評価】

- ・両学部がそれぞれ主催する F D 研修会を、全学 F D 研修会と位置づけて実施することにより、両学部の F D 活動の取り組みを情報共有することができた。

【課題】

- ・平成 27 年度は、両学部共通のテーマを設定して実施することが望まれる。

(4) 教職課程委員会

【目標】

教育職員免許状取得の所要資格を得させるために必要な本学の教職課程の運営について審議し、教職課程の履修と実習実施に向けた資格ごとの計画立案・事前事後指導、及び履修科目の単位認定を円滑に実施させることを目標とする。全学学務委員会の下部組織として位置づけられている。

【実施内容】

・構成メンバー

水上委員長、辻井教授、仲井教授、福島教授、彼谷准教授、吉田准教授、石倉講師、酒井教務課長、小比賀呉羽キャンパス事務長

・会議内容

開催日時・場所・出欠	審議事項	報告事項
平成 26 年 4 月 9 日 (水) 16:45～17:50 呉羽 C2 階会議室 出席：7 名 欠席：2 名	1. 富山県教育委員会との連携協定について 2. 平成 26 年度幼稚園・小学校実習について 3. 文部科学省教職課程認定大学実地視察について	
平成 26 年 10 月 29 日 (水) 13:00～13:35 呉羽 C2 階会議室	1. 平成 26 年度履修カルテ（小学校・幼稚園）について 2. 文部科学省教職課程認定大学実地	

出席：8名 欠席：1名	視察の準備状況について	
平成27年2月12日(水) 13:10～13:20 呉羽C2階会議室 出席：7名 欠席：2名	1. 平成27年度教職課程認定の変更について 2. 文部科学省教職課程認定大学実地視察結果について	

【評価】

文科省教職課程認定大学実地視察を受け、教員養成に関する教育課程と教員組織については「おおむね良好」、さらに、地域密着型として実績を挙げている点評価された。ただし、一部の教科について、シラバスの記載内容が科目の趣旨に照らし適切でない等指摘があり、即時対応した。

小学校教諭一種免許取得者45名（58％）幼稚園教諭一種免許取得者58名（75.3％）と、概ね取得希望者の希望に添った結果を得ることができた。本年度は、履修カルテの活用及びゼミ担任の指導が奏功してか、科目未履修により免許取得が不可となる学生は皆無であった。

【課題】

免許取得者は、毎年増加していくことが予想されるが、教員としての資質、力量が不足している学生の増加も否定できない。26年度は、公立小学校教諭5名、公立小学校臨時的任用講師10名の就職となったが、今後どのようにして教師力を向上させていくかが課題である。

また、母校実習のあり方や新たな実習協力校の開拓等、継続的に教育実習の経験を蓄積できる体制づくりも検討を要する。

2. 図書館委員会

【実施計画】

図書館委員会規程に基づき、重要案件を審議する。

【実施内容】

・構成メンバー

上坂館長、浦山教授、原教授、仲井教授、後藤准教授、大藪准教授、小西准教授、酒井教務課長

・会議内容

開催日時・場所・出欠	協議・報告事項
平成26年7月8日(火) 16:20～17:50 東黒牧C 4号館 402教室 出席：9名 欠席：1名	1. 平成26年度図書館委員の構成について 2. 平成26年度図書館予算について 3. 学生向け教育用・新刊図書の選定について 4. 平成26年度図書館年間計画（案）について 5. アクションプランについて 6. その他 (ア) 紀要について (イ) 開架雑誌のレイアウトについて
平成26年9月3日(水) 13:30～14:30 東黒牧C 4号館 402教室 出席：7名 欠席：3名	1. 紀要要領について 2. 「学生向け選定図書」の提出状況について 3. その他
平成26年11月10日(月) 16:30～18:00 東黒牧C・呉羽C Web会議 出席：10名	1. 富山国際大学地域学部紀要 創刊号廃棄依頼の経過報告について 2. 紀要意向調査の経過報告について 3. 過去の紀要の公開について 4. 「学生向け選定図書」の提出状況について 5. 図書館入退出管理のIC化の経過報告について 6. 平成27年度図書館予算について

	7. 電子教科書配信システムについて 8. 国立国会図書館の図書館向けデジタル化資料送信サービスについて 9. iPad の運用方法について 10. その他
平成 27 年 1 月 6 日 (火) 9:00~10:00 東黒牧 C・呉羽 C Web 会議 出席: 8 名 欠席: 1 名	1. 富山国際大学紀要の公開について 2. 卒業論文題目一覧の公開について 3. その他
平成 27 年 2 月 16 日 (月) 9:30~10:40 東黒牧 C・呉羽 C Web 会議 出席: 8 名 欠席: 1 名	1. 富山国際大学紀要の公開について 2. 卒業論文題目一覧の公開について (経過報告) 3. 富山国際大学図書館委員会規程の改正について 4. 平成 27 年度前期学生向け教育用・新刊図書の選定について 5. その他
平成 27 年 3 月 12 日 (木) 15:13~15:50 東黒牧 C・呉羽 C Web 会議 出席: 9 名	1. 富山国際大学紀要公開の作業プロセスについて 2. 平成 27 年度前期学生向け教育用・新刊図書の提出状況について 3. その他

【評価】

平成 26 年度は委員会を計 6 回開催し、特に本学紀要の公開やその方法について、きめ細かく検討した。

【課題】

平成 26 年度に引き続き、紀要の公開プロセスについて検討する。

また、図書館の利用促進及び選定図書の選定方法等も検討し、実施したい。

さらに図書館の収容スペースについても対策が必要であり、併せて除籍についても、対象及び方法等について検討が必要である。

3. 情報センター運営委員会

【実施計画】

情報センター規程に基づき、年度当初、および予算策定期間の 2 回、情報センター運営委員会を実施し、センター運営について協議する。

【実施内容】

・構成メンバー

上坂センター長、尾畑教授、吉田准教授、斎藤准教授、高尾准教授、堀江准教授、谷口講師、酒井教務課長、水野教務課主査、宮森情報センター員

・会議内容

開催日時・場所・出欠	協議事項
平成 26 年 6 月 12 日 (木) 16:30~18:15 東黒牧キャンパス(大会議室) 呉羽キャンパス(会議室) 出席: 7 名 欠席: 3 名	1.平成 26 年度運営事業 2.平成 26 年度特別事業ファイアーウォール 3.平成 26 年度特別事業子ども育成学部フロアスイッチ用 UPS 4.平成 26 年度特別事業監視端末 5.平成 26 年度情報センター施策 6.ORION ファイルサーバ移行 7.教育用動画配信ストリーミングサーバの導入 8.子ども育成学部プリンター・サーバシステムの Windows8 対応

平成 26 年 11 月 13 日(木) 16:20～17:50 東黒牧キャンパス(大会議室) 呉羽キャンパス(会議室) 出席：8 名 欠席：2 名	1.平成 26 年度特別事業に関する報告および今後の執行計画 2.平成 27 年度情報センター運営事業 予算申請 3.平成 27 年度情報センター教育用設備関連事業 予算申請 4.主要機器等メーカーサポート期限と予算への申請内容 5.ネットワークシステムの更新 6.全学プリントサーバシステムの導入 7.ネットワークの増速 8.平成 27 年度幹旋ノート型 PC 仕様 9.アクションプラン実施状況
--	---

【評価】

6 月と 11 月に情報センター運営委員会を実施し、センター運営について協議した。

サーバシステムの移行およびネットワーク環境の変化について討議された。ハードウェアおよびソフトウェア技術の変化への対応を順次行い、情報センター担当業務を着実に果たし、問題なく運用されている事が確認された。

【課題】

更にハードウェアおよびソフトウェア技術の変化への対応を検討するためにも、情報センター運営委員会の開催頻度が年 2 回では不足している面がある。27 年度からは年 4 回程度に回数を増やしていくことを検討する。

4. キャリア支援センター運営会議

【実施計画】

キャリア支援センターに関する諸問題について検討することを目的とし、原則として毎月 1 回開催する。

【実施内容】

・構成メンバー

大西委員（現代社会学部）、後藤委員（現代社会学部）、斉藤委員（現代社会学部）、鶴山委員（子ども育成学部）、辻井委員（子ども育成学部）、村瀬センター長（現代社会学部）、室林センター次長（子ども育成学部）、岩木学生課課長

・会議内容

開催日時・場所・出欠	審議事項	報告事項
平成 26 年 4 月 21 日 (月) 16:30～17:00 東黒牧 C・呉羽 C Web 会議 出席：8 名 欠席：0 名	①26 年度センター体制 ②26 年度「企業・事業所・大学講演会」の開催日時、講師、場所等について ③現代社会学部インターンシップ	①25 年度就職内定状況 ②アクションプランについて
平成 26 年 5 月 19 日(月) 16:30～17:00 東黒牧 C・呉羽 C Web 会議 出席：8 名 欠席：0 名	なし	①後援会理事会（5/24）及び役員会（5/27）資料 ②26 年度インターンシップ ③就職内定状況 ④アクションプラン
平成 26 年 6 月 23 日 (月) 16:30～17:00 東黒牧 C・呉羽 C Web 会議 出席：8 名 欠席：0 名	①履歴書様式 ②「2015 年度採用のための大学案内」の作成要領 ③インターンシップの企業別担当教員	①就職内定状況 ②大連実務研修 ③大学コンソーシアム富山 職場訪問
平成 26 年 7 月 30 日(水) 16:30～17:00	なし	①就職内定状況 ②保護者懇談会

東黒牧C・呉羽C Web 会議 出席：8名 欠席：0名		③大学コンソーシアム富山 職場訪問 ④9月以降のセンター会議日程
平成26年9月24日(水) 16:30～17:00 東黒牧C・呉羽C Web 会議 出席：8名 欠席：0名	①企業・事業所・大学講演会 ②「2015年度採用のための大学案内」	①後期キャリア支援センターオリエンテーション ②就職内定状況 ③子ども育成学部「キャリア支援講座」3年生向け講座講師 ④労働政策研究研修機構 聞き取り調査
平成26年10月20日(月) 16:30～17:00 東黒牧C・呉羽C Web 会議 出席：8名 欠席：0名	①企業・事業所・大学講演会 ②インターンシップ評価表 ③26年度学内合同企業説明会 ④富山県ひとづくり財団要望書	①就職内定状況
平成26年11月26日 (月) 16:30～17:00 東黒牧C・呉羽C Web 会議 出席：8名 欠席：0名	①27年度予算案 ②27年度「キャリア教育」 ③26年度学内合同企業説明会	①26年度企業・事業所・大学講演会 アンケート結果 ②就職内定状況
平成26年12月25日 (月) 16:30～17:00 東黒牧C・呉羽C Web 会議 出席：8名 欠席：0名	なし	①27年度予算 ②26年度学内合同企業説明会 ③就職内定状況
平成27年1月28日(水) 16:30～17:00 東黒牧C・呉羽C Web 会議 出席：8名 欠席：0名	①27年度「キャリア教育」年間予定 ②27年度「学生便覧」 ③26年度学内合同企業説明会	①富山信用金庫インターンシップ ②就職内定状況
平成27年2月24日(水) 16:30～17:00 東黒牧C・呉羽C Web 会議 出席：8名 欠席：0名	①26年度学内合同企業説明会 ②27年度「キャリア教育」年間予定	①就職内定状況 ②富山信用金庫インターンシップ
平成27年3月31日(月) 16:30～17:00 東黒牧C・呉羽C Web 会議 出席：8名 欠席：0名	①27年度キャリア関係オリエンテーション ②第4回大連企業実務研究募集	①26年度学内合同企業説明会アンケート結果 ②27年度「キャリア教育」年間予定 ③就職内定状況 ④27年度予算

【評価】

昨年度に引き続き WEB を使い会議が行なわれたが、順調に審議が行なわれた。月1回のペースも適当であった。

【課題】

特になし。

5. 国際交流センター運営会議

【目標】

本学の国際交流に関する事項について、教職員による協議を行う。

【実施内容】

- ・構成メンバー

才田国際交流センター長、湯国際交流センター次長、高橋哲郎教員、福島教員、斎藤教員、B. パプリー
事務 山崎・岩木・島口

・会議内容

開催日時・場所・出欠	審議事項	報告事項
第1回 2014年5月1日 16:20～18:00 東黒牧C・学務部会議室 出席：7名 欠席：2名	平成26年度留学プログラム参加希望者について 平成26年度の奨学金受給者の推薦について チューターの委嘱について 国際交流センターアクションプランについて検討された。	留学生の動向～卒業生および在校生 EMBAより学院長来学が報告された。 後期交換留学生の希望について 平成26年度国際交流センター年間カレンダー報告された。
第2回 2014年6月26日 16:20～18:00 東黒牧C・学務部会議室 出席：9名 欠席：0名	国際交流フォーラムの企画案について 長期留学・異文化研修参加者対策について 大学祭で留学フェアの検討 グローバル化対応策(HPの外国語化)について 後期受入留学生の承認について	
第3回 2014年7月25日 16:20～18:20 東黒牧C・学務部会議室 出席：9名 欠席：0名	グローバル化対応・ホームページの外国語化(英語・中国)進捗状況 私立大学等改革総合支援事業「グローバル化への対応」申請のための設備の検討について 教職員の語学力向上のためのSD研修会について 来年度開催の国際交流シンポジウムについて 長期留学・異文化研修参加者増加策の検討について	
第4回 2014年8月22日 10:00～12:00 東黒牧C・学務部会議室 出席：7名 欠席：2名	私立大学等改革総合支援事業「グローバル化への対応」設備について ロータリー米山奨学財団の推薦について協議 海外協定校、協定候補校の視察報告 ヨーク大学(加)：交換留学協定について、今後正式ルートで交渉。 秋入学留学生の担当	大連海洋大学から2名の編入生が9月中に来日することが報告された。 トロント大学等との留学協定のための協議と異文化研修等の視察のために出張が報告された。 日本語プレースメントテストの結果報告
第5回 2014年10月2日 16:20～19:30 東黒牧C・学務部会議室 出席：9名 欠席：0名	学生の海外体験促進策の検討 留学生確保の方針策について検討を行った 協定校拡大の検討を行った JASSOの平成27年度海外留学支援制度(奨学金)応募について	
第6回 2014年10月28日 16:20～18:30 東黒牧C・学務部会議室 出席：9名 欠席：0名	長野国際文化学院との協定について 来年度開催の国際交流シンポジウムについて TOEIC試験の実施について	H26年度後期チューターについて 南通大学との2+2の協定進捗状況について

第7回 2014年11月27日 17:20～19:00 東黒牧C・学務部会議室 出席：9名 欠席：0名	南通大学訪問団予定及び2+2協定について 海外旅行傷害保険代理店契約について 平成27年度予算について TOEIC試験の実施について	平成26年度日本学生支援機構 海外留学支援制度 奨学金支給 手続きについて 27年度前期交換留学希望調査結果から報告がなされた。
第8回 2015年1月8日 16:20～17:40 東黒牧C・学務部会議室 出席：9名 欠席：0名	平成27年度交換留学生受け入れについて インターナショナルプログラムズ(長期)派遣学生について	TOEIC試験の実施結果について 外国からの訪問団が予定されていることが報告された。
第9回 2015年2月5日 13:00～14:30 東黒牧C・学務部会議室 出席：9名 欠席：0名	JASSO 海外留学支援制度の応募結果について 協定校拡大について 海外旅行保険(AIU)の包括契約について 海外インターンシップ引率について 新年度オリエンテーションについて	ロータリー米山奨学金の応募結果について
第10回 2015年2月19日 10:00～12:00 東黒牧C・学務部会議室 出席：8名 欠席：1名	豪州キャンベラ大学との協定について	オリエンテーションについて JASSO 留学支援制度の実績報告について 新入生の入国予定が報告された。
第11回 2015年3月26日 10:00～12:00 東黒牧C・学務部会議室 出席：8名 欠席：1名	南通大学とのダブルディグリー協定について TOEIC IP（本学学生対象の合同受験）の開催について オリエンテーションについて	留学説明会について 国際化推進委員会の設置について 平成27年度予算で グローバル化対応予算が承認されたことが報告された。 新入生の入国状況について報告された。

【評価】

留学生の入学減少が続いており、協定校との協力を得て、国際化の強化を図る。TOEIC IP を今年度から取り入れたが、受験者数が当初考えた人数より少なく、来年に繋げるよう工夫する必要がある。（本学の学生が英語に親しみつつ楽しく学ぶ場として、東黒牧キャンパス厚生棟に English Café がオープンさせる事を検討。）

【課題】

TOEIC IP（本学学生対象の合同受験）を年2回実施し、一人でも多く受けさせ英語力を付けさせる。
また、海外留学についても、多く参加できるように努力をする。